令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	北海道

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

○　全員で 10 人
大学教授１人、医療関係者３人（がん専門医・小児科医・がん専門看護師）、保健福祉部局１人
がん経験者１人、校長２人（中学校・高等学校）、養護教諭１人、行政関係者１人（教育委員会）

○　連携先
北海道保健福祉部局、北海道がん診療連携協議会、北海道がん患者連絡会、北海道医師会、
北海道看護協会、北海道対がん協会

２．開催時期、検討内容

期　日	出席者	開催方法	内　　容
令和３年 ９月２日	８名	Web	○第１回連絡協議会 ・学校におけるがん教育の推進について ・北海道におけるがんに関する現状と対策について ・令和３年度がん教育総合支援事業の計画について
令和３年 11 月	10 名	書面	○第２回連絡協議会 ・がん教育推進校の取組について
令和４年 ２月	10 名	書面	○第３回連絡協議会 ・事業の成果と課題に関する報告について ・今年度の成果の検証及び今後の取組に向けて

②　教育委員会としての取組

○　がん教育推進校における取組
・がん教育推進校（中学校１校・高等学校１校）を指定、授業研究及び授業公開、成果の普及
・取組内容の詳細については、「（２）推進校における取組」に記載

○　外部講師リストの更新・拡充
・既存の外部講師リストの情報を更新
・北海道医師会の協力を得て、新たに医師会員にリストへの掲載を依頼
・外部講師リストの活用を促進するため、実践事例を作成し周知する予定

○　事業成果の普及
・北海道教育委員会主催のがん教育研修会において、これまでの推進校による実践を発表
・令和３年度のがん教育推進校の実践等をまとめ、市町村教育委員会及び学校へ周知するとともに、北海道教育委員会の web ページに掲載する予定

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○　がん教育研修会

・北海道教育委員会主催のがん教育研修会において、保健福祉部局のがん担当者から「北海道のがんの現状」について説明

○　外部講師リストの更新・拡充

・北海道がん診療連携協議会や北海道医師会の協力を得て、道内の各病院にリストへの掲載を依頼

・活用状況に係るアンケートへの協力

（２）推進校における取組

○　函館市立深堀中学校

【取組テーマ】

がんに対する正しい知識を身に付けるとともに、命の大切さについて主体的に考え、自らの健康を適切に管理することができる生徒の育成

【実践内容】

○講話（函館五稜郭病院がん相談支援室・看護師長）

○授業（保健体育科）

【実践の成果】

専門的な知識のある講師を招いての講話や、保健体育科の公開授業により、学校全体のがん教育の重要性や必要性についての意識が高まった。

特に、生徒ががんについて正しい知識を得ることができたことにより、よりよい生活習慣やがん検診の重要性について理解を深めることができた。

○　北海道松前高等学校

【取組テーマ】

「がん」についての授業や講話等における主体的な活動を通して正しい知識を学び、自己の生活習慣を見直し、生涯にわたる健康の保持増進に向けた意識と態度を育成する。

【実践内容】

○講話（市立函館病院がん相談支援センター）

○授業（保健体育科）

※がん予防啓発ポスターを１人１枚作成

【実践成果】

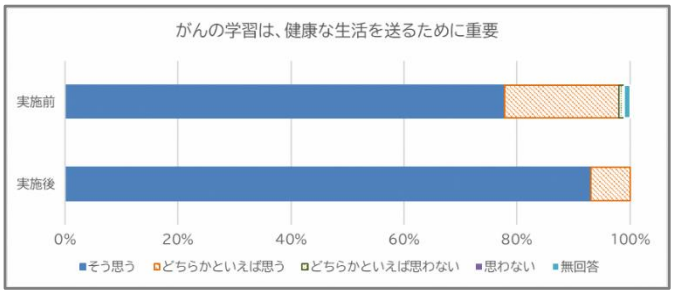
がん講話後のワークシートには、将来がんにならないために自分自身の生活習慣を見直したいことや、将来、たばこを吸わないようにしたいと書いている生徒が多くみられ、生涯における健康の保持増進が、がん予防につながり、また、社会全体での取組の重要性についても考えるきっかけとなった。

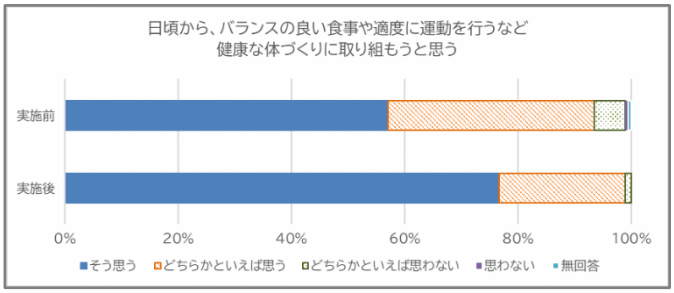
生徒は、がんについての正しい知識を学び、健康的な生活習慣がいかに大切かを改めて認識した。

２．事業の達成度について

（１）がん教育推進校における取組について

・生徒に対するアンケート結果から（抜粋）





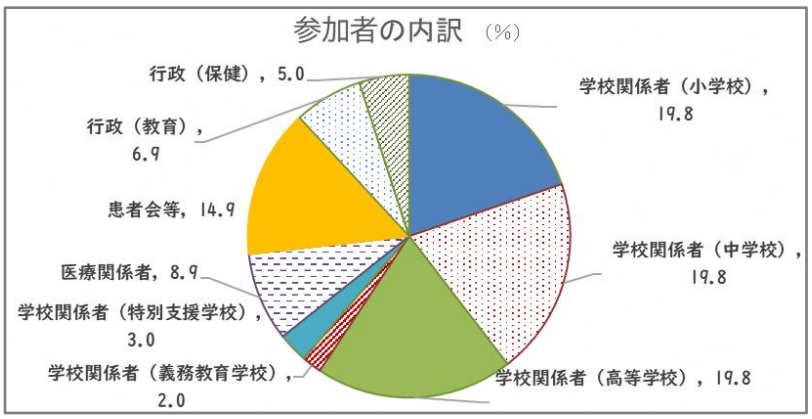
生徒を対象とした事業実施前後のアンケート結果によると、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要」「日頃からバランスのよい食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえば思う」と回答した生徒が増加するなど、がん教育を通して「がん」についての理解を深め、健康と命の大切さに気付くことができたと考えられる。

（２）がん教育研修会について

○　内容及び講師

【講義（教職員対象）】「学習指導要領に対応したがん教育の進め方について」（教育庁）
【講義（外部講師対象）】「外部講師に期待されること」（NPO 法人がんサポートかごしま　理事長）
【説明】「北海道におけるがんの現状」（道保健福祉部）
【講演】「学校におけるがん教育の考え方・進め方」（新潟医療福祉大学　教授）
【実践発表】「中学校におけるがん教育の実践」（推進校　保健体育科教諭）
「高等学校におけるがん教育の実践」（推進校　保健体育科教諭）
「外部講師としての実践」（外部講師　がん経験者）

・がん教育研修会アンケート結果から（抜粋）

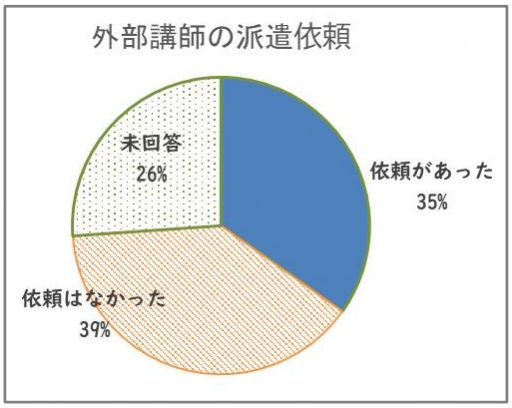


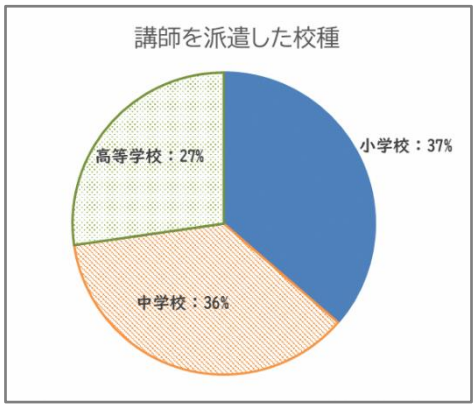
道内全ての地域の学校関係者及び外部講師又は外部講師になる予定の方を対象とした研修会を集合とオンラインを合わせて開催したところ、全ての学校種の学校関係者に加え、医療関係者や患者会等から 101 名が参加し、道内のほぼ全ての地域から参加があった。

内容については、【講義】については約８割、【説明】、【講演】、【実践発表】については９割以上が「大変役立った」「おおむね役だった」との回答であった。

（３）外部講師リストについて

・外部講師リスト掲載団体等を対象としたアンケート結果から（抜粋）





依頼があった団体等は、前年度の 18%から大きく増加している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、医療関係者等が学校を訪問することや、学校が外部から講師を招くこと、講師が公共交通機関等で移動することなど、慎重な対応が求められるところであったが、オンラインの活用により、派遣依頼が増加したと考えられる。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○　学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施及びがん教育を継続していく必要があることから、引き続き、推進校の実践研究及び成果の普及・啓発を図る必要がある。

○　へき地や離島などを含めた北海道の全ての地域において、がん教育を推進するために、オンライン等を活用した外部講師による講話の在り方について事例を収集し、普及する必要がある。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○　全ての学校において、教育課程に位置付けて、学習指導要領に基づいたがん教育を推進できるよう、引き続き、推進校における取組を学校種別に広く普及する必要がある。

○　学校のニーズに対応できるよう外部講師の拡充及びオンラインを活用した外部講師との連携を促進する必要があることから、北海道医師会や北海道がん診療連携協議会等の関係機関と連携を図り、外部講師リストの更新を行うとともに、活用例をまとめ、広く周知する必要がある。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	青森県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

【検討委員会】全部で９人

（医療関係者）医師（内科・がん検診管理指導監）各１人（計２人）、大学教授（腫瘍内科）１人
大学教授（看護学）１人、県の保健担当部局員（がん生活習慣病対策課）１人

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校長各１人（計３人）

（事務局）　県学校保健担当部局員（スポーツ健康課）１人

【ワーキンググループ】全部で１１人

（医療関係者）大学教授（看護学）１人

（学識経験者）大学名誉教授１人、がん患者家族１人

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校養護教諭（計４名）、中学校教頭１名、高等学校保健体育科教諭１人、教育事務所学校保健担当指導主事２人

【他組織との連携】

青森県健康福祉部がん生活習慣病対策課、がん診療連携拠点病院（県拠点病院：青森県立中央病院、地域拠点病院：弘前大学医学部附属病院、八戸市立市民病院、むつ総合病院）

２．開催時期、検討内容

実施時期	検討事項	出席者
令和３年１２月１日	第１回ワーキンググループ ○事業内容説明 〇各校のがん教育の取組について情報交換 ○がん教育指導用補助資料活用状況の調査項目の検討	１１人
令和４年１月２６日	第２回ワーキンググループ ○事業内容説明 〇がん教育指導用補助資料活用状況の調査結果をもとに、効果的な活用について協議	１１人
令和４年２月１５日	第１回検討委員会 ○事業内容説明 ○がん教育指導用補助資料の活用状況調査についての報告及び効果的な活用について協議 ○今後のがん教育推進のロードマップについて検討 ○県のがん教育の今後の取組について協議	８人

② 教育委員会としての取組

○ワーキンググループにおいて、令和 2 年度に作成したがん教育指導補助資料の活用状況について把握、検証した。また、本県で平成 27 年度から実施しているがん教育について、今後の進め方についても検討した。その他、がん教育への共通理解を図るとともに、地域（学校）の実情に応じた外部講師の活用方法や今後のがん教育の方向性について協議した。

○県内の健康教育実践指定校のうち７校（小学校２校、中学校３校、高等学校２校）をモデル校とし、５校で外部講師を招いてがん教育を実践した。実践内容については、「（２）モデル校における取組」に記載。

○学校でのがん教育の推進を図るため、県内の教職員に対して研修会を実施。聖心女子大学現代教養学部教授植田誠治氏による「学校におけるがん教育の考え方・進め方」の講義を動画配信でのオンデマンド型研修を行った。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○青森県がん教育検討委員会ワーキンググループにて、モデル校におけるがん教育の実践内容について情報交換を行った。

○がん診療連携拠点病院等に健康教育実践校の講師を依頼した。

・モデル校を指定し、外部講師を招いてのがん教育講演会の実施。

・昨年度作成、配布したがん教育指導用補助資料データの更新について県保健部局に依頼した。

（２）モデル校における取組

階上町立石鉢小学校 １２月１４日（火） １３：５５～１５：３０	県教育庁スポーツ健康課 指導主事 三上　孝志　氏	６年生児童 教職員	○「がんを通して健康といのちについて考えよう」 ・青森県の現状 ・がんの予防のために ・「がん」を患った患者や家族への接し方
蓬田町立蓬田小学校 １０月２９日（金） １０：４０～１１：３０	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤　温　氏	５・６年生 児童 教職員	○「がんを学ぼう～あなたと大切な人の命のために～」 ・日本と青森県のがんの状況 ・がんの起こり方、原因 ・がんの早期発見、治療法 ・命の大切さ
東北町立東北小学校 10月２９日（金） 13：30～14：20	八戸市民病院 副院長 沖　元二　氏	２年生生徒 教職員	○がんとは ・がんとはどんな病気か ・がんの予防法 ・根拠に基づいた治療 ・がん患者と接する時は
藤崎町立明徳中学校 10月1日（金） 13：４０～14：３０	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤　温　氏	３年生生徒 教職員 保護者	○「がんについて知ろう～いのちのはなし～」 ・がんのイメージ ・青森県のがん死亡率 ・原因と予防 ・治療と緩和ケア ・がん患者の思い
むつ市立大畑中学校 １１月５日(金) 13：35～14：25	むつ総合病院 産科部長・医師 石原　佳奈　氏	３年生生徒 教職員 保護者	○「がんってどんなもの？」 ・日本のがんの現状 ・検診による早期発見・早期治療の必要性

※県立三沢高校、県立弘前高校は、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け中止とした。

（３）その他

〇教職員向けがん教育に関する研修会

講義　「学校におけるがん教育の考え方・進め方」

講師　聖心女子大学現代教養学部　教授　植田　誠治　氏

実施時期	対象教員
令和４年２月 22 日（火） ～ 令和４年５月 13 日（金）	小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員 市町村教育委員会の健康教育を担当する指導主事等の職員

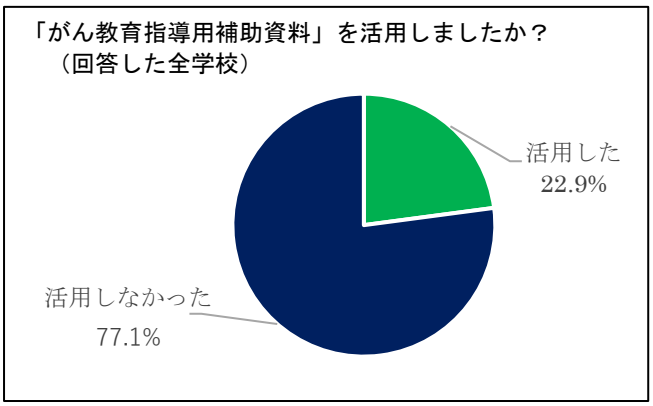
※令和４年１月１９日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、動画配信によるオンデマンド型研修とした。

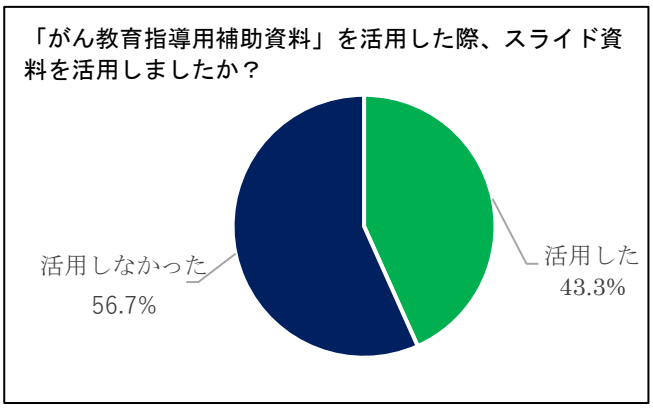
２．事業の達成度について

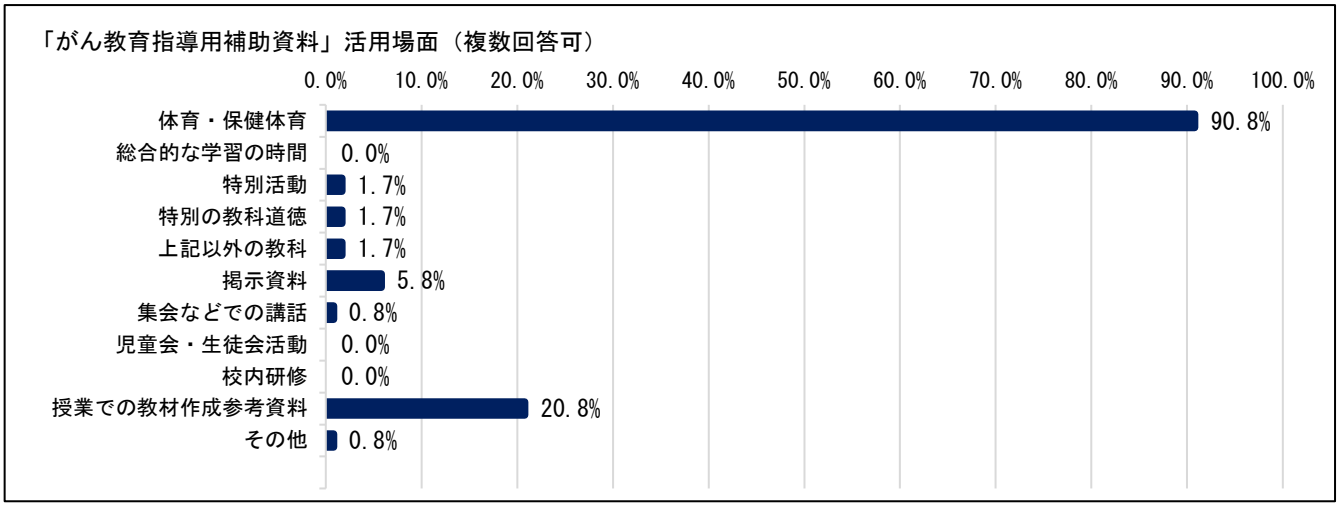
（１）ワーキングクループ

昨年度作成したがん教育補助指導資料の活用状況について調査を行い、結果をもとに効果的な活用方法ついて協議し、課題を明確化した。補助使用の効果的な活用に向けた具体的な対策として、研修会等をとおして県内の小・中・高等学校へのがん教育指導用補助資料の周知を図っていくことやデータの更新、モデル校での実践により補助資料の検証や見直しを行うこととした。

・がん教育指導用補助資料の活用状況調査結果から（抜粋）







「がん教育指導用補助資料」を活用した際の感想やほしい資料等について御記入ください。

・問題形式になっているので、児童・生徒の興味や意欲を高めることができた。
・項目ごとにまとめられており、分かりやすかった。
・青森県に特化した資料で説得力があった。
・がん教育についてどのように進めるか迷ったが、ＣＤ資料があり授業で扱いやすかった。
・教科書以外に活用できる教材があり、ありがたい。
・小学生向けの発達段階に応じた資料がほしい（読み仮名、イラスト、写真、文字の大きさ、背景の色）。
・データの追加（青森県のがん死亡率の他県との差、なぜ青森県の死亡率が高いのか。実物写真）
・データの更新（最新のデータの提供）
・自分で加工できるスライド資料、パワーポイント資料があればよい
・ＷＥＢ上からダウンロードできるとよい。
・家族をがんで亡くした児童生徒への配慮が難しい。

調査の結果、活用した教員からは青森県に特化した資料で良かった、CD 資料があり扱いやすかったと意見があった。一方で、がん教育指導用補助資料の活用が公立学校全体で低いことから、ワーキンググループではより学校現場での効果的な活用について協議し、以下の８つの課題が挙げられた。

①補助資料について、学校関係者への周知が必要である。
②補助資料データを県教育委員会のホームページ上に掲載し、ダウンロードできるとよい。
③データの更新がされるとよい。
④すぐに授業に活用できる実践例等があるとよい。
⑤パワーポイントデータがあるとよい。
⑥がん教育の必要性、定義等について学校への周知が必要である。
⑦がん教育は、発達段階を考慮しながら、体育・保健体育科の授業を中心に、特別活動や道徳科等、学校教育全体を通じて行われる健康教育に位置付けて取り組む必要がある。
⑧がん教育における配慮が必要な事項について、学校関係者への周知が必要である。

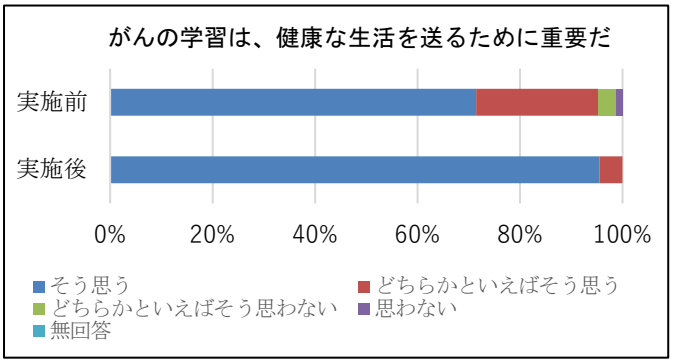
また、各学校での児童生徒の実態把握、外部講師との連携、配慮について校内で共通理解を図る必要性についても確認した。

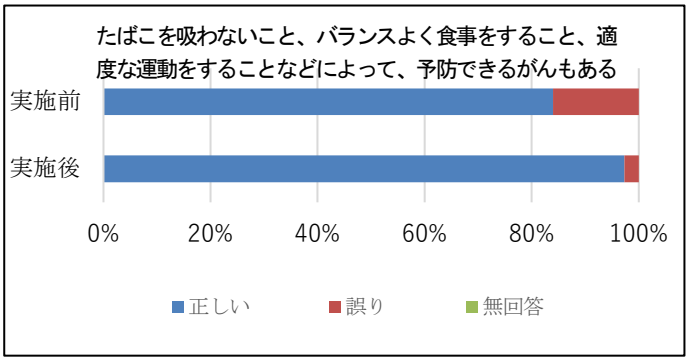
（２）検討委員会

検討委員会では、がん教育指導用補助資料の活用状況調査の結果及びワーキンググループでの協議内等について検討するだけでなく、今後のがん教育推進に向けた関係部局やがん診療連携拠点病院、学校関係者が意見交換を行ったことで、各々の取組内容を共有でき、今後の効果的な指導法や連携の仕方を考える良い機会となった。

（３）モデル校におけるがん教育について

・児童生徒に対するアンケート結果から（抜粋）





質問	事前（%） n＝２３１				事後（%） n＝222			
	そう思う	どちらかといえば		思わない	そう思う	どちらかといえば		思わない
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a　自分はがんにならないと思う。	13.9	27.3	20.3	38.5	5.9	18.0	24.8	51.4
d　がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う。	53.2	36.3	7.5	3.0	81.8	15.1	2.1	1.0
f　がんになっても生活の質を高めることができる。	12.3	34.4	34.4	18.8	31.8	35.1	18.9	14.2
g　がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	63.6	30.5	1.9	3.9	86.5	12.8	0.7	0.0
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	36.8	35.5	18.6	9.1	64.9	27.5	4.1	3.6

事業を実施したことにより、「がんの学習は健康な生活を送るために重要だ」という質問に「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増え、がんの学習の重要性について認識が深まったものと考えられる。また、生活習慣によって予防できるがんもあることを学び、健康的な生活習慣についての意識が高くなったことがわかる。

他の質問項目の変容をみると、誰でもがんに罹る可能性があることを認識したことやがんの早期発見・早期治療のためのがん検診の重要性について学ぶことが出来ていることが伺える。また、がん教育を実施したことで、がんと共生する社会についての理解も深まったことが分かる。事業を通し自身の学びを家族など身近な人に話そうと考えた児童生徒も増え、大人の世代へのがん教育の波及も期待できる。

（３）がん教育推進のための講演会

児童・生徒の感想（一部抜粋）

・私は最初、がんは怖いイメージがあり、がんはかかってしまうと、なかなか治りにくい病気だと思っていましたが、今日のお話を聞いて、がんは早期に発見すれば９０％の確率で助かることが分かりました。また、がんにかからないためには、体によい生活習慣が大切だと分かったので、これからは生活習慣に気を付けていこうと思います。（小学生）

・今日の「がん教育講座」を通して、本当の「しあわせ」というものをすごく考えさせられました。コロナ禍で今までの生活が恋しくなるように、がん患者の人も今までよりもっともっと自分を知って、自分なりの「しあわせ」をみつけているんだなと思いました。私の身の回りでがんになった人がいないので２人に１人ががんになる可能性があると知ってびっくりしました。だからこそ、これから家族や大切な人を守るためにがん検診をすすめたり、がんになったときのことを話し合おうと思いました。また、私は「関係性のいのち」という言葉を聞いて、家族や友達のありがたみをすごく感じ、周りの人がいて自分がいるんだと実感しました。いのちを大切にするために生活習慣を見直したり、適度な運動をして防げることは防いで長生きしようと思いました。（中学生）

・自分や家族、親しい人がいつがんと向き合うことになるのか分からないので、今のうちにがんに対する正しい知識を身に付けておくことが大切だと思いました。（中学生）

・私が考えていた以上に、がんの早期発見、早期治療、そしてワクチンの接種はとても大切なことを学びました。私もお母さんや周りの人に検診を勧めよう、自分もきちんと受けようと思いました。短命県の青森を、私たちが少しずつ何とかしていかなければと責任も感じました。（中学生）

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

〇令和３年度は健康教育実践校において令和２年度に作成したがん教育指導用補助資料を使用してがん教育に取り組み、資料の内容を検証することとした。また、県内公立学校においてがん教育指導用補助資料の活用状況調査を実施し、その結果をもとに効果的な活用について協議し、課題を明確化した。令和４年度は、１．モデル校での実践事例の紹介、２．令和２年度に指導者向けがん教育研修会を行っているが、がん教育についての周知が必要であるとの意見を踏まえ検討等、課題解決に向けた取組を実施したい。

〇外部講師の確保と質の担保のため、県保健衛生部局と連携し、外部講師との連携体制の構築について検討していきたい。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

〇モデル校以外でもがん教育を推進するため、「学校におけるがん教育の考え方・進め方」をテーマに、聖心女子大学現代教養学部　教授　植田　誠治　氏による教職員向けの研修会（オンデマンド）を行った。今後、がん教育指導用補助資料の周知及び各学校の実態に応じ、がん教育を取り入れたカリキュラムマネジメントについても検討していく必要がある。

外部講師については、県保健衛生部局と連携し、学校のニーズに合った外部講師のリスト化を目指し取り組んでいく、

また、青森県の実態に即したがん教育を推進するためには、小学校、中学校、高等学校で教えるべき内容を明確にし、あわせてがん教育の評価について今後検討することが重要である。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	岩手県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全体で 12 人【内訳：医師２人（県医師会小児科医、がん診療連携拠点病院緩和医療科医）、県衛生主管部局１人、PTA１人、校長３人（小学校、中学校、高等学校）、養護教諭１人、県教育委員会４人】

２．開催時期、検討内容

■第１回協議会

（１）開 催 日：令和３年９月８日（水）

（２）協議内容

ア　令和２年度岩手県がん教育総合支援事業報告について

イ　令和３年度岩手県がん教育総合支援事業計画について

ウ　外部講師によるがん教育の体制づくりについて

■第２回協議会

（１）開 催 日：令和４年２月２日（水）

（２）協議内容

ア　令和３年度岩手県がん教育総合支援事業報告について

イ　令和４年度岩手県がん教育総合支援事業計画について

ウ　外部講師によるがん教育の体制づくりについて

■検討内容

（１）今後の事業の方向性について

・教職員の研修機会の継続。

・協議会等による意見交換の継続。

（２）外部講師によるがん教育の体制づくりについて

・教育的観点、医学的観点から、より良いがん教育の在り方を継続的に話し合っていく体制作りが必要であること。

・限られた講師で、より多くの学校でがん教育を実施するための検討。（ICT 活用も含めて）

②　教育委員会としての取組

１．主な取組の経過

実施時期	実施事項
5月 26 日	県立学校「がん教育講演会」講師派遣事業について通知 希望のあった 14 校について、がん診療連携拠点病院とのマッチングを行い、通知した。
7月 20 日	令和３年度がん教育総合支援事業　がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」の開催について周知 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会 令和３年度岩手県がん教育総合支援事業協議会委員

9月8日	モデル授業　打合せ 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」における小学校特別活動展開例による授業 【参加者：外部講師（がん経験者）、授業者（実践校教諭）、副校長、養護教諭、指導主事】
9月29日	モデル授業　実施 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」掲載の小学校特別活動展開例による授業 【参観者：当該校教諭等３名、学校薬剤師、指導主事２人】
11月24日	令和３年度がん教育研修会・シンポジウムの開催について周知 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、がん患者会 令和３年度岩手県がん教育総合支援事業協議会委員
3月2日	小学生向けがん教育リーフレットの配布 衛生主管部局が配布する小学生向けリーフレットの配布と活用について通知

２．外部講師派遣事業

（１）目的

がん専門医等を派遣することにより、生徒が「がんについて正しく理解すること」及び「健康と命の大切さについて主体的に考えることができること」を目指すとともに、自らの健康を適切に管理する生徒を育成する。

（２）対象

派遣を希望する県立高等学校、特別支援学校高等部

（３）講師

がん診療連携拠点病院の医師等

３．教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

（１）期　　日　　令和３年10月26日（火）

（２）実施形態　　ライブ配信型オンラインにより開催

※双方向通信による質疑応答

（４）内　　容

ア　実践紹介「中学校保健体育におけるがん教育の実際」（40分）

保健体育課　主任指導主事　小野　甚市

イ　講義「学校におけるがん教育の在り方と進め方」（講義60分・質疑応答10分）

筑波大学名誉教授　野津　有司　氏

４．「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」　の増刷と活用の促進

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・外部講師の派遣について、県保健福祉部、がん診療連携拠点病院、県医師会、対がん協会等と連携して行った。

・県がん対策推進協議会に出席し、がん教育総合支援事業における取組、学校の取組等について共有した。

・県医師会との協議会において、がん教育の推進について協力を要望した。

（２）モデル校における取組

■がん経験者と連携した授業実践

＜日　　時＞　　令和３年９月29日（水）　３校時

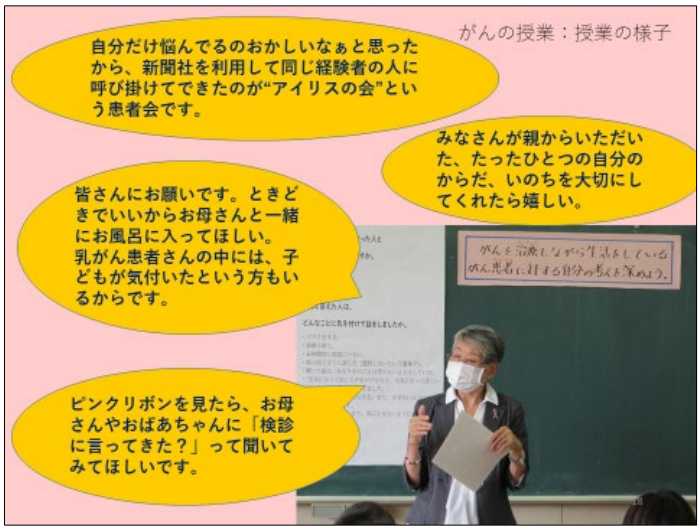
＜授業実施校＞　　盛岡市立山王小学校

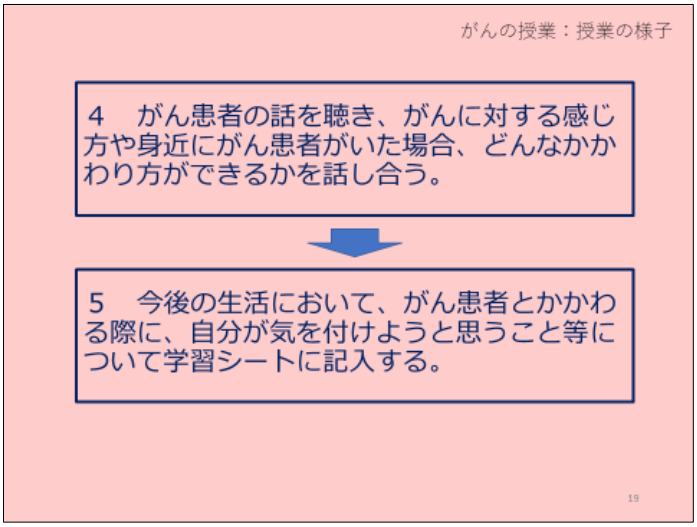
＜授　業　者＞　盛岡市立山王小学校　５年生担任　今川　理香　教諭
＜外 部 講 師＞　乳がん患者会　アイリスの会　会長　鈴木　俊子　氏
＜対　　象＞　５年生
＜授 業 内 容＞　「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業
学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
題材「がん患者の話を聞き、自らの健康や命の大切さに気付く」

■事前打ち合わせ
＜出　席　者＞　外部講師、授業者、副校長、養護教諭、担当指導主事
＜内　　容＞　・授業者より、授業の展開について説明
・外部講師の伝えたい内容の聞き取り
・両者の思いを尊重しながら、授業の構成と目標を確認
・配慮すること
・５年生教室の確認（ビデオカメラの位置や外部講師が話す位置など）

授業者が外部講師に期待する内容	外部講師（乳がん経験者）が子供たちに伝えたい内容
・がんとわかったときの気持ち ・家族はどのように受け止めたのか ・治療中の人、経験した人がどのような生活をしているのか ・鈴木さん自身のお話しに加えて、可能な範囲で他の患者さんの様子をお話しいただくと、様々な受け止め方や生き方があることを知るきっかけになるのではないか ・身の回りの人が、がんに罹患することも少ないことから、恐怖を抱きすぎない内容とし、がんを前向きに受け止められる授業としたい。 ・授業の最後には、「がん患者とかかわる際に、自分ならどんなかかわりができるかについて、前向きに自己決定できる」子供の姿を目指す。 ・鈴木さんの、現在の姿そのものが、子供たちのがんに対するイメージを変えるのではないか。	・がんの種類 ・早期発見のための健診の重要性 ・早期発見には家族の気づきも重要（たまにはお母さんと一緒にお風呂に入ってみましょう。） ・子どもからの促しが健診率アップにつながる ・ピンクリボン活動の紹介 ・アイリスの会のピンクリボン活動用ティッシュを配りたい。持ち帰って、家庭で話題にしてもらいたい。

授業で外部講師が児童に伝えた内容
・乳がんとわかったときの気持ち ・どのようにして乳がんとわかったのか ・治療後の気持ち（再発の不安と転移の不安） ・乳がん患者会を立ち上げたときの心境 ・子供がお母さんの乳がんに気付いた事例があること。 ・たまにはお母さんやおばあちゃんとお風呂に一緒に入ってみてほしいこと。 ・ピンクリボンを見かけたら、お母さんやおばあちゃんに「検診に行ってきた？」など、声をかけてほしいこと。 ・自分自身の命を大切にしてほしいこと。





２．事業の達成度について

（１）協議会の実施

・協議会委員に対する評価アンケートを実施し、「協議会として十分な支援を行えたか」について、「支援できた」と回答した委員は 77.8%であった。

・第１回は書面開催とし、第２回は集合による開催（一部オンライン出席）とした。

・外部講師と連携したがん教育は、事前の打ち合わせの重要性について再確認するとともに、事後の打ち合わせを行い、その内容について共有する体制を作ることが行政の重要な役割であることを確認できた。

（２）教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

■参加者数　103 名

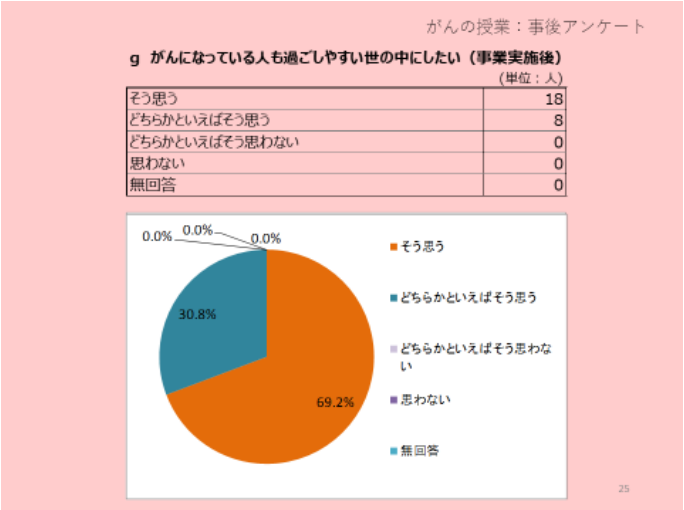
【校種別内訳】小学校 55 名、中学校 31 名、高等学校 14 名、特別支援学校３名

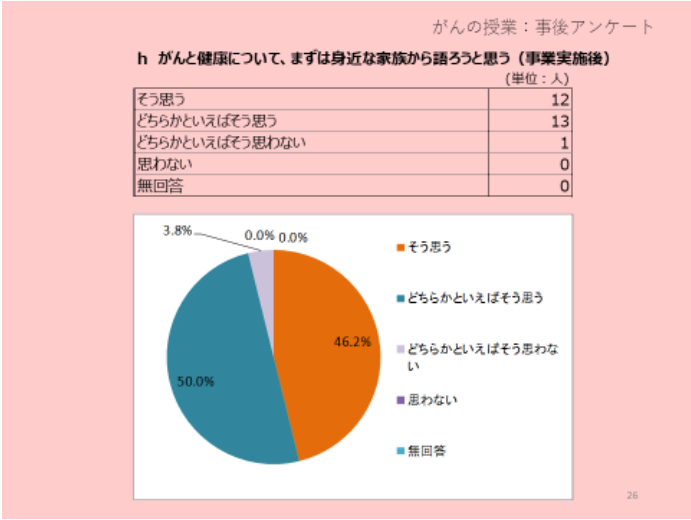
【職名別内訳】養護教諭・養護助教諭 89 名、教諭（保健主事）12 名、教諭（保健体育科）１名
教諭（その他）１名

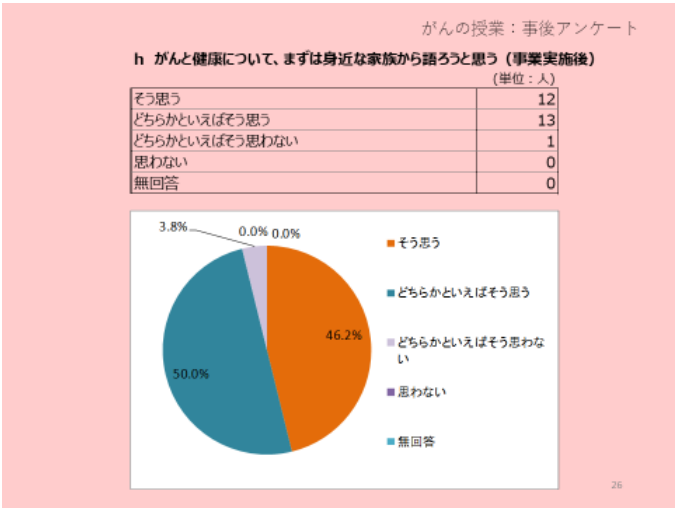
■県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会に周知依頼を行ったが、参加申し込みは１名のみであり、当日の診療の都合により欠席であった。

【実施後アンケート】
参加者 103 名の回答：「たいへん有意義であった」70 名　「有意義であった」33 名
（小）がん教育の授業展開や学習シートが参考になり、活用したい。
（小）必要性や意義等は認識していても、具体が想像つかず手をつけられなかったところがあったので、今回のお話は非常に勉強になりました。
（小）がん教育について小学校から中学校、高等学校へと系統的な学びが大切であるということから、小学校段階でも体育科、特別活動、道徳などでマニュアルを活用しながら中学校へつながる実践的な指導に活かしていきたいです。そのためにも、家庭や地域との連携を図りながら組織的計画的に進めていきたいと思います。
（中）がんの科学は日々変わっていくことや、どの学校種でも扱うことなどを踏まえて、知識を教え込むことだけでなく、自分事として生徒に考えさせるような授業づくりが必要だと感じた。
（高）がん教育で、どのように学ぶか、何ができるようになるか、授業後も継続的、応用的、発展的なメッセージとなるようにまとめる工夫をするということ。

（３）モデル校における授業実践
■「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業を実施し、授業のねらいを達成することができる展開例であることを確認することができた。
■事前打ち合わせにより、外部講師が授業の展開や外部講師の役割を理解し、協力が得られたことにより効果的に実施することができた。
■授業実施後アンケート







【学習シート】「学習をふりかえって感想を書きましょう。」　※生徒記入内容抜粋

・がんは、あまりならないと思ったけど、２人にひとりなると聞いてびっくりしました。すごくなりやすいんだなぁと思いました。おばあちゃんが乳がんになったことがあって、でも、すぐに元気になって、すぐに治りやすいと思ったけど、実際は、すごく辛いんだと思った。治ったあとでも辛いことがわかったからです。わたしは、いつかがんになった人と話すかもしれないので、その時は、あまりがんのことを話さずに、明るく相手が元気になるように話そうと思いました。

・最初は「がん」って重くて、手術すれば治ることもあるのではないかと、あまり現実味が無かった。けれど、２人にひとりががんになると聞いて驚いた。そんなに確率が高いのも驚いたけど、そんな身近なことを全く知らなかった自分自身に驚いた。鈴木さんのお話を聞いて、がんは体も大変だけれど、それが治っても不安や恐怖が続くとわかった。だから、がんにかかった人と関わる時は、普通に接して、明るい話をしようと思った。また、だれでもなる可能性があるため、他人事だとは思わずに、真剣に向き合っていこうと思った。そして、がんの人も楽しく過ごせる社会にしたい。

・すごく大変な病気だけしか思っていなかったけど、治療が終わった後は、心が病気になることを知って、がんに一度なってしまった人は、こんなに大変なことを感じたのだと、びっくりしました。なので、がんになった人が自分の周りにいたら、鈴木さんがおっしゃったがんの人だけが行く相談会を教えてあげたり、普通の生活のように接して、少しお手伝いをしてあげたいです。そして、「ピンクリボン」の活動も積極的にしたいです。

（４）外部講師派遣事業の実施

■実施校

高等学校 10 校、特別支援学校２校、参加生徒人数合計　1,680 人

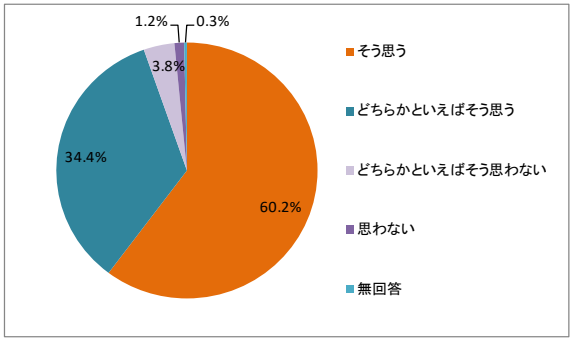
■児童生徒アンケート結果

※協力が得られた９校の授業実施前・実施後アンケート

c　日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

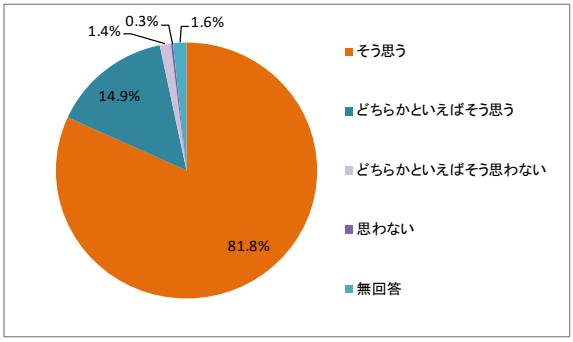
そう思う	709
どちらかといえばそう思う	405
どちらかといえばそう思わない	45
思わない	14
無回答	4



c　日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)

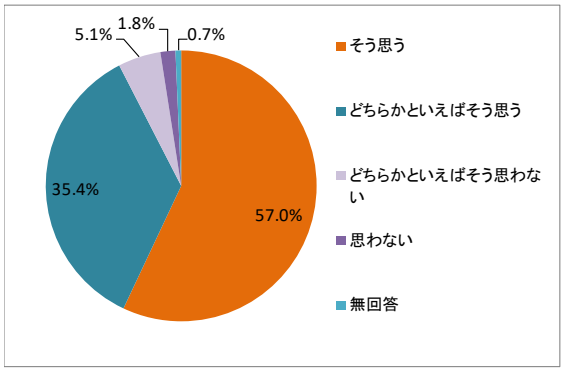
そう思う	895
どちらかといえばそう思う	163
どちらかといえばそう思わない	15
思わない	3
無回答	18



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施前）

（単位：人）

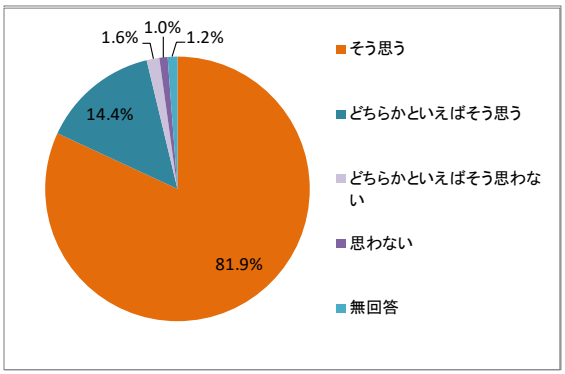
そう思う	671
どちらかといえばそう思う	417
どちらかといえばそう思わない	60
思わない	21
無回答	8



d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施後）

（単位：人）

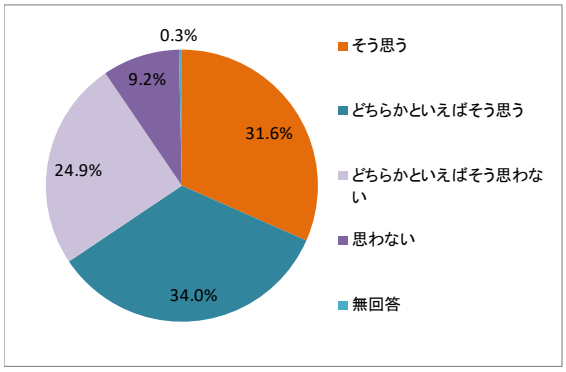
そう思う	896
どちらかといえばそう思う	157
どちらかといえばそう思わない	17
思わない	11
無回答	13



f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施前）

（単位：人）

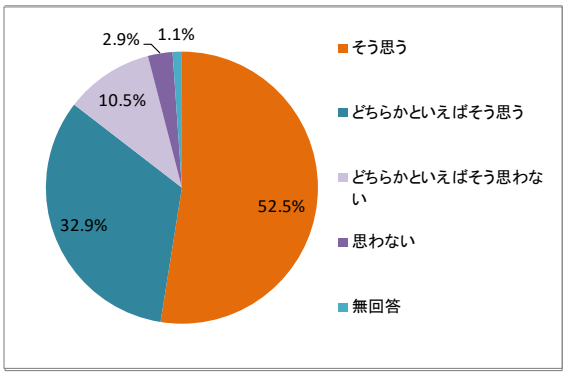
そう思う	372
どちらかといえばそう思う	400
どちらかといえばそう思わない	293
思わない	108
無回答	4



f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施後）

（単位：人）

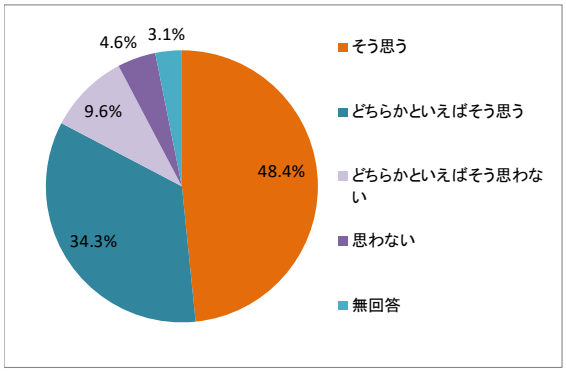
そう思う	574
どちらかといえばそう思う	360
どちらかといえばそう思わない	115
思わない	32
無回答	12



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施前）

（単位：人）

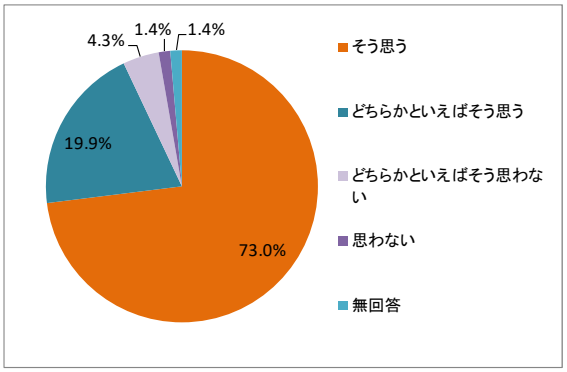
そう思う	584
どちらかといえばそう思う	414
どちらかといえばそう思わない	116
思わない	55
無回答	38



h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施後）

（単位：人）

そう思う	799
どちらかといえばそう思う	218
どちらかといえばそう思わない	47
思わない	15
無回答	15



■実施校担当者の感想

【成果】
・がんについて詳しく知ることができた。年齢が若くても、がんは身近な病気であるという意識を高めた。しかし一方で、しっかりと治療をすれば、完治する病気であることも認識できた。病気でも生活の質を向上させ、最後まで人間らしく尊厳を失わずに生きるために、緩和ケアが果たす役割は大きく、そのことも理解することができた。
・講師の分かりやすい説明と理解しやすいスライド・動画（厚労省）により、がんの基本的な知識を身に付けることができた。
・事前事後アンケートの結果比較から、明らかにがんに対する考え方の変容が見取とることができた。
・がんの要因や予防、治療法を具体的に学んだことで、がんは身近な病気であること、免疫を高める生活をすること、定期検診や治療を通じ、自他の健康を守っていくことの大切さを理解することができた。
・がんについての正しい知識を与える機会となり、生涯健康な生活を送るための行動選択ができる力の育成の一助となった。

【課題】
・やや高度な内容もあったが、大学病院の医師の講演は、高校単独での企画は難しいので今回の機会は大変貴重なものであった。
・がんの知識は知り得たが、今後生活をしていく上で、各生徒が予防のための行動を具体的に実践できるかどうか、また、身近な人への働きかけができるかどうかが課題として考えられる。
・今回、保健だよりの配付とした事前指導、事後指導は改善が必要。他教科（保健、家庭科等）と連携し丁寧に行うことや、教材を使用し保健指導の時間を設けるなどの工夫で、より理解が深まると感じた。
・保護者参観も可能とし、家族で健康について考える機会を設けられるよう工夫したい。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

・がん教育の進め方については、どの校種とも教職員の研修が必要である。今後も、学校保健推進者対象、保健体育科教諭対象等の各種研修会において取り扱っていく。
・「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の活用を推進すること。
・マニュアル掲載の授業展開例５例のうち昨年度は中学校保健体育、今年度は小学校特別活動について検証を行ったが、他の展開例についても、効果を検証する必要がある。
・外部講師と連携したがん教育について実践を共有しながら、効果的ながん教育を推進する。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・学習指導要領の内容及びがん教育の進め方についての教職員の研修が必要である。
・外部講師と連携したがん教育をより効果的なものにしていくため、また、外部講師の拡充のためには、外部講師（医療関係者等）と学校が、授業実施後に効果の検証を行い、その内容を共有していく体制づくりが必要である。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	山形

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員（全員で１５人）

・管理指導医１名、がん専門医１名、がん教育アドバイザー１名、小学校長会１名、中学校長会１名、高等学校長会１名、特別支援学校長会１名、養護教諭連絡協議会１名、健康福祉部局１名、県教育庁スポーツ保健課長１名、スポーツ保健課事務局５名

２．開催時期、検討内容

・第１回（令和３年７月５日）：がん教育の普及・推進に向けた計画の検討

・第２回（令和４年１月３１日）：がん教育に関する実践の検証、次年度方針の検討

②　教育委員会としての取組

１．推進校の指定（４校）：真室川町立真室川中学校、鶴岡市立鶴岡第二中学校
県立米沢商業高等学校、県立鶴岡南高等学校

・推進校への外部講師の派遣

鶴岡市立鶴岡第二中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和３年９月１５日
講師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　先生
対象：２年生１１４名
内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

真室川町立真室川中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和３年１０月２８日
講師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　先生（看護師帯同）
対象：１・２年生１００名
内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

鶴岡南高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和３年１１月１２日
講師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　先生
対象：１学年２０１名
内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。

米沢商業高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日時：令和３年１２月９日
講師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　先生（がん経験者帯同）
対象：全校生２９４名
内容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会。

<がん教育講演会の様子：高等学校>

<がん教育講演会の様子：中学校>

２．がん教育指導者・外部講師研修会の開催

令和３年度がん教育総合支援事業がん教育指導者・外部講師研修会

日時：令和３年１１月１１日

行政説明：「山形県におけるがん教育の推進について」　県教育庁スポーツ保健課担当

講師：一般社団法人 MY wells 地域ケア工房　代表　　緩和医療専門医　神谷　浩平　氏

演題：　「中学・高校生にも知っておいてもらいたい病気（がん）と共に歩む社会のこと」

会場：山形市スポーツセンター大会議室（Zoom を活用したハイブリッド開催）

参加者：４３名

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・健康福祉部局との連携を図り、推進校の生徒に大切な家族へ検診を促す、メッセージカードの配布。

（２）推進校における取組

【鶴岡市立鶴岡第二中学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

＊②教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考

３時間：保健分野（生活習慣の予防を中心としたがん教育の実践）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【真室川町立真室川中学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

＊②教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考

３時間：保健分野（グループ活動を通し、生活習慣の大切さについて検討し、がんについての正しい理解を深める。養護教諭とのＴ・T）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【鶴岡南高等学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

＊②教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考

３時間：科目「保健」（グループ活動を通し、課題の解決に向けたがん教育の調べ学習）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【米沢商業高等学校での取組】

０時間：文部科学省事前アンケート（生徒の現状を把握する）

１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする。）

＊②教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考

３時間：科目「保健」（グループ活動を通し、がんを予防する生活習慣について、また近い将来にやってくるであろう、がんと共生する生き方について思考・判断し、理解を深める。）

４時間：文部科学省事後アンケート（生徒の変容を把握する）

＜研究授業の様子：中学校＞

＜研究授業の様子：高等学校＞

２．事業の達成度について

推進校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）　（%）

質　問	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	78.8	90.2	11.4
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	80.8	92.0	11.2
がんは日本人の死因の第２位である。（誤り）	53.5	68.1	14.6
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	60.9	73.9	13.0
がんになっても生活の質を高めることができる。（そう思う）	29.0	54.6	25.6
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	49.5	70.2	20.7

外部講師によるがん教育講演会実施後のアンケート

・がんになっても、ならなくても、自分の支えになる大切な物、人がいるのは幸せなんだなと思った。がんにならないように、たばこ、酒には気を付けていきたいと思った。（中学１年生・男子）

・がんになる理由は、がんの種類によって違い、主に食事、肥満などによってなっているということが分かりました。もし今後、周りでがんになっている人がいたとしたら、先生が言っていたとおり、そばについて「支え」になってあげたいと思いました。（中学１年生・女子）

・すごくわかりやすかったし、考えられるよい機会になったと思います。がんは怖いものだと思っていたのでかわいそうだなと思ってしまいました。でも、がんになっている人は、楽しいやうれしいなど思っていることもあると思うので、かわいそうではなくて、一緒に笑ったり、泣いたり、苦しんだり苦楽を共に過ごしていこうと思えるようになりました。（中学２年生・女子）

・今は２人に１人ががんになると聞いて、当たり前のような生活を急に病気によって失っていく可能性も大いにあり得るのだと思った。生きる価値観はみんな違うが、自分や命を大切にし、今ある普通の日常に感謝したい。（高校２年生・女子）

・検診などはとても大事なことが分かったので、自分はもちろん周りの人にも、そのようなことを教えてあげたいと思います。どのような病気でも、周りの力が大事なことに気付きました。がんは約５０％の確率と言われているので自分の予防はもちろん、家族や友人にもこのことを話したいと思います。（高校３年生・男子）

・講演の中で患者さんの話が出てきて、いろいろ考え、生き方、そして家族とのかかわり方、本当に全てに強い印象を受けました。こうやって普通に生活できていることが本当は奇跡で素晴らしいことなんだと改めて気づくことができて、とても良い機会になったと思います。（高校１年生・女子）

・人の死は１００％誰にでもあることで、誰もが向き合わなければならないことだということはわかっていたけれど、いざとなると今日、実際の患者さんのように怖い、自分の存在価値は、と考えてしまうのは当たり前だと感じました。自分自身にできること、相手にしてあげられる事、「行動できなくても、そばにいることならできる」そんなことを忘れないでいたいと思いました。また、早期発見、子宮がん検診など、今の自分にできることは最大限したいと決心しました。（高校１年生・女子）

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

・推進校の取組みでは、講演会の数日後に、保健の研究授業を実施したが、生活習慣病の予防がメインとなり、がん患者の生活の質や理解と共生のことをまで、十分に指導することができなかった。今後は、新学習指導要領に対応した授業実践につながるような指導や周知が必要である。
・指導者・外部講師研修会の参加者は養護教諭が多いので、今後は管理職や保健体育科教諭、保健主事等の積極的な参加につながるよう、他の研修会の機会をとらえて、啓発を図る必要があり、研修会への参加者を増やしていき、学校全体でがん教育を推進していく体制に発展させる必要がある。
・本県の外部講師を活用したがん教育の実施状況がまだ低い状況である。外部講師リストを活用しながら、各学校の実践につなげたい。また、小学校での広がりまで考えると、医師だけでなくがん経験者の方の情報も把握する必要がある。関係機関とも連携しながら、講師の情報把握に努めたい。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・各校種ごとに応じた、がん教育の実践例の作成・周知
・外部講師の育成や派遣などの体制整備

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	福島県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で　２４人

【内訳】学識経験者（大学教授）１人、学校医代表（医師会：小児科）１人、看護師・保健師代表１人、がん診療連携協議会（がん専門医：乳腺外科）１人、がん経験者・家族会代表１人、研究推進校（校長）３人、中学校長会１人、高等学校長協会１人、中学校教育研究会保健体育部会（校長）１人、高等学校教育研究会保健体育部会（校長）１人、県学校保健会養護教諭部会（養護教諭）１人、県学校保健会保健主事部会（教諭）１人、保健福祉部（健康づくり推進課長、地域医療課長）２人、県教育庁健康教育課長１人、事務局（健康教育課５人、保健福祉部２人）

２．開催時期、検討内容

実施期日	内容等	出席者数
６月３０日（水） 14:00～15:30 （オンライン開催）	＜第１回がん教育推進協議会＞ 〇委員委嘱 （１）福島県がん教育実践事業について （２）モデル校における事業計画について （３）外部講師について　等	１７名
１月２６日（水） 14:00～16:00 （オンライン開催）	＜第２回がん教育推進協議会＞ （１）モデル校の実践報告 （２）今年度の成果と課題 （３）今後のがん教育について　等	２０名

②　教育委員会としての取組

ア　教員対象研修会

実施期日	内容等	出席者数
【会津・南会津】 １０月　４日（月） 下郷ふれあいセンター 【県中】 １０月１４日（木） 田村市文化センター 【県南】 １１月２５日（木） 中島村生涯学習センター	＜講　義＞ 【会津・南会津】「タバコの弊害と肺癌治療の現状」 講師　福島県立医科大学医学部呼吸器外科学講座 主任教授　鈴木　弘行　氏 【県中】【県南】「がんを学ぶ」 講師　福島県立医科大学医学部乳腺外科学講座 学内講師　立花和之進　氏 対象：小学校・中学校・義務教育学校・高等学校及び特別支援学校の養護教諭（県中・県南・会津・南会津地区）の悉皆研修	計３８７名

イ　外部講師相談窓口事業

・外部講師リストの整備と外部講師の紹介
【外部講師登録状況】登録団体数　２３
医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、患者会・家族、遺伝カウンセラー、支援団体、社会福祉士、放射線技師、作業療法士、検査技師　　等

【外部講師活用状況（相談窓口事業利用）】
派遣件数　７件　＊新型コロナウイルス感染拡大の影響により１件中止
（内訳）小学校　　５件（医師３、保健師２）
中学校　　１件（医師１）
高等学校　１件（看護師１）

ウ　外部講師養成研修会

実施期日	内容等	出席者数
１２月７日（火） ～２４日（金） （Ｗｅｂ開催）	講演　テーマ「学校におけるがん教育の実際」 講師　福島県立医科大学保健科学部 准教授　佐藤　久志　氏 健康教育課 YouTube チャンネルにおける限定公開	視聴回数 １８８回

エ　がん教育啓発リーフレットの作成

・令和元年度から令和３年度までの福島県がん教育実践事業におけるモデル校の実践についてまとめ、その一例を紹介するリーフレットを作成し、周知啓発を図った。
【配布日：２月２４日（木）】
【配布先：県内公立全小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校】

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○　保健福祉部との連携
・保健福祉部関連事業の教育活動への活用（受動喫煙防止ポスターコンクール等の募集、講演会等の周知）

○　がん患者会との連携
・がん患者会主催の研修会へ参加し、がん教育や事業に関する講演を行い、がん教育への協力を依頼した。

（２）モデル校における取組

【指定校①】いわき市立御厩小学校

○　取組のテーマ：　健康と命の大切さを育むがん教育

○　校内研修会（授業研究会）
・実施日　７月１６日（金）
・内　容　小学校５学年　道徳科「おばあちゃんが残したもの」
元学校薬剤師を外部講師として招聘し、病気と向き合うことや命のつながりについて理解を深めた。

・実施日　１０月１５日（金）
・内　容　小学校４学年　道徳科「花丸手帳」
がん経験者を外部講師として招聘し、池江璃花子選手を題材にして大きな病と闘うことについて理解を深めた。

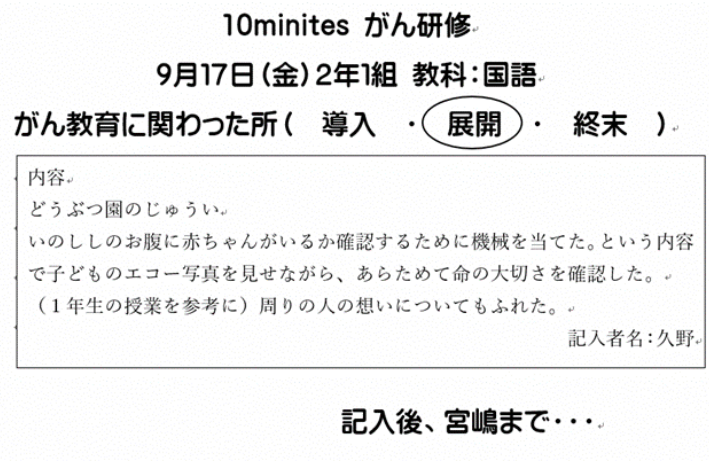
○　研究公開

実施期日	内容等
11 月 18 日(木) 13:25～16:30 参加者 ○内郷地区、好間・三和地区の小学校・中学校の教職員１９名 ○がん教育推進協議会委員２名 ○教育事務所、教育委員会の関係職員	①研究授業 ○３年２組　道徳科「命あるかぎり生きる」 外部講師　　Iwaki ピンクリボン　立原めぐみ　氏 ○６年２組　体育科保健領域「病気の予防」 外部講師　　いわき市総合保健福祉センター　保健師　髙木　真由　氏 ②講演会 「小学校におけるがん教育の在り方について」 講師　聖心女子大学　教授　植田　誠治　氏 ③事後研究会 研究授業指導助言者　いわき教育事務所指導主事　２名

○　その他の取組

・年間を通したがん教育推進の取組「10minutes がん教育」の実施

生命尊重、健康教育など、がん教育に関わる内容を授業で取り扱った場合、シートに記入をし、全職員で共有。


10minites がん研修

9月17日(金)2年1組 教科:国語

がん教育に関わった所(　導入　・展開・　終末　)

内容

どうぶつ園のじゅうい。

いのししのお腹に赤ちゃんがいるか確認するために機械を当てた。という内容で子どものエコー写真を見せながら、あらためて命の大切さを確認した。

（1年生の授業を参考に）周りの人の想いについてもふれた。

記入者名:久野

記入後、宮嶋まで・・・

【活用例】

１年生　生活　きれいにさいてね

２年生　学活　歯の健康

　　国語　どうぶつ園のじゅうい

３年生　理科　トンボやバッタを育てよう

４年生　道徳　花丸手帳

５年生　家庭　おいしい楽しい調理の仕方

６年生　社会　縄文人のくらい

みまや　ソーシャルスキルトレーニング

など

・「外部講師活用シート」の作成と活用

外部講師に授業のねらいを伝え、理解が深まる話をしてもらえるよう、また外部講師の先生の思いを理解し、相互理解を図るために、外部講師活用シートを作成。

先崎　敬　先生へ　授業の目的・内容についてのご相談

いわき市立　御厩小学校

日　時	【事前授業】７月７日（水）　１３時２５分　～　１４時１０分 【研究授業】７月１６日（金）１３時２５分　～　１４時１０分
対　象	【事前授業】第５学年１組１８名　【研究授業】第５学年２組１７名
教科・単元名	教科　：道徳　　主題：亡くなった人が残したもの　内容項目:生命の尊さ 教材名：おばあちゃんが残したもの
授業の目的	生命のつながりの中にある生命を感じ、かけがえのない生命を尊重し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。
お話頂きたい内容	（はじめ・中・終末）　８分程度 子ども達は、教材をもとに亡くなった人が残してくれるものについて考え、生命は生と死の繰り返しでつながっていくだけでなく、亡くなった人の人生・生き方が自分に影響を与え、心の中でつながり、残っていくことについて学習をします。自分の命はつながりの中にあること、自分だけでなく、１人１人の人間がそれぞれに命のつながりの中にいることを考え、互いの生命を大切にしようとする心情を培うことをねらいとしています。 先崎先生には、その授業の終末に、ご経験の中から、命のつながりを感じたことや、生命の大切さについてお話をしていただきたいです。
児童に提示して頂きたい資料	お話いただく内容について、映像等があれば、お願いいたします。
配慮が必要な児童について	
その他	終末までは参観者と共に授業をご参観ください。終末にゲストとして紹介させていただきます。
講師の先生から	① 今の仕事（薬剤師・クラウン）についての紹介。先祖から受け継いだ思いを含めて話をする。 ② 「人間は二度死ぬ」生命の終わりだけでなく、人に忘れられた時に人は二度目の死を迎えるという話。だからこそ、人の人生や思いを大切していれば、人は心の中で一生生き続けることができる。 ③ 「力があったネアンデルタール人が滅び、ホモサピエンスが生きているのは？」愛と知恵を受け継いでいるから。 ⇒子ども達も、思いを受け継ぎ、生命は心で繋がっている。互いに大切にしてほしい。

【指定校②】会津若松市立第一中学校

○　取組のテーマ：　「みんなで実践、健康づくり大作戦」～ミッション１～「生きる」

○　校内研修会（教員対象）

・実施日　８月２５日（水）　（オンライン）

・内　容　講演　「学校におけるがん教育の考え方、進め方」

講師　聖心女子大学　教授　植田　誠治　氏

○　研究公開

実施期日	内容等
11 月 11 日(木) 13:40～16:15 参加者 ○会津地区の小学校・中学校・高	①研究授業 ○２年３・４組　保健体育科保健分野「健康な生活と疾病の予防」 ○３学年（学年授業）　道徳科「豊かな人権感覚」 外部講師　がん経験者　元校長　菅家　敏之　氏

等学校の教職員 ２１名 ○がん教育推進協議会委員７名 ○教育事務所、教育委員会の関係職員	 ②研究協議会 ・授業者自評　・協議 ・指導助言者　聖心女子大学　教授　植田　誠治　氏

【指定校③】福島県立福島明成高等学校

○　取組のテーマ：　学校全体で取り組む、明成思いやりがん教育

○　校内研修会（教員対象）
・実施日　８月２６日（木）　（オンライン）
・内　容　講演　「学校におけるがん教育の考え方、進め方」
講師　聖心女子大学　教授　植田　誠治　氏

○　生徒向け講演会の開催
・内　容　がんとはどのような病気なのか、予防や検診、治療等についてがんの専門医から話を聞き、がんに関する正しい知識を身につけた。
・実施日　９月１６日（木）　１年生対象
講　師　福島県立医科大学附属病院　小児腫瘍内科　助教　大原　喜裕　氏

○　教職員ミーティング
・内　容　闘病中の生徒の主治医から、該当生徒への病状や対応についてヒアリングを行い、在校中の生活の質向上のための研修を行った。
・実施日　９月１６日（木）　該当学年及び関係教職員対象
講　師　福島県立医科大学附属病院　小児腫瘍内科　助教　大原　喜裕　氏

○　研究公開

実施期日	内容等
10 月 21 日(木) 13:25～16:15 参加者 ○県北地区の中学校・高等学校の教職員１５名 ○がん教育推進協議会委員８名 ○教育事務所、教育委員会の関係職員	①研究授業 ○１年５組　ホームルーム活動（２）「がん患者への理解と共生」 ②全体会 ・取組について報告 ・研究協議 ・指導助言者　聖心女子大学　教授　植田　誠治　氏

○　生徒会委員会活動

・保健美化委員による小児がん募金活動「レモネードスタンド募金活動」
　実施日　第１回　　９月２２日（水）
　　第２回　１１月　４日（木）

２．事業の達成度について

モデル校における文部科学省アンケート結果（一部抜粋）

・いわき市立御厩小学校　（%）

質　　問	授業前	授業後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	78.0	94.0	16.0
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	80.0	96.0	16.0
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	80.0	100.0	20.0
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う等健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	80.0	90.0	10.0
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	78.0	100.0	22.0
家族や身近な人が健康であってほしいと思う（そう思う）	90.0	98.0	8.0

・会津若松市立第一中学校　（%）

質　　問	授業前	授業後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	76.0	87.9	11.9
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	81.6	89.0	7.4
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う等健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	68.5	77.2	8.7
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	59.6	71.0	11.4
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	20.4	30.5	10.1
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	73.8	79.8	6.0

・福島明成高等学校　（%）

質　　問	授業前	授業後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	76.8	89.3	12.5
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	76.1	90.0	13.9
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う等健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	49.4	63.9	14.5
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	45.1	66.7	21.6
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	17.6	32.7	15.1
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	56.0	72.6	16.6

○　がん経験者や専門医等の外部講師から、具体的な体験談や正しい知識を学んだことで、多くの項目でポイントが増加した。
○　小学校における実践では、具体的な生活場面での学習内容であったため、喫煙や検診についての意識の変容が大きかった。
○　中学校や高等学校では、社会との結びつきに関連した項目で意識変容が見られたこと。特に、高等学校では、生徒会活動による募金活動等を実施したことで、社会参加への意識が大きく向上した。
○　目標を明確にした授業実践を行うことで、児童生徒の意識の変容が見られ、効果的な指導となった。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○　令和２年度から県内３地域にそれぞれモデル校を指定し、地域ごとに研究授業公開を行い、周知啓発に努める計画とした。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により地域に広く公開することができなかった。そのため、国費予算により啓発リーフレットを作成し、県内の公立小・中・義務教育学校、高等学校、特別支援学校に配付し、周知啓発を行うこととした。今後も実践事例の収集に努め、ホームページ掲載等による紹介を行いたい。

○　各学校においてがん教育の推進者を増やしていけるよう様々な研修会の機会を活用し啓発していく必要があると考え、令和２年度は養護教諭対象の研修会において、がん専門医からの講義を設定し、県予算により講師を依頼して、がんに関する正しい知識の定着とがん教育の必要性について啓発を図り、今年度も継続して取り組む計画とし、２か年計画で全県の養護教諭に対する研修を実施することができた。今後は保健体育科教員や保健主事等に対する周知啓発の場を設定していきたい。

○　令和２年度の外部講師活用に関する課題として、謝金等の課題や新型コロナウイルス感染拡大の影響等から、活用数は多くなかった。今年度においても同様の課題が残った。しかし、モデル校においては国費により外部講師を依頼し、多くの知見を得ることができた。また、外部講師としての活動に興味を持っている医療者は多いが、講演や授業参加を実際に経験している医療者は少なく、研修等の環境をととのえる必要がある。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○　外部講師の派遣に対する旅費や謝金について、財源の確保も含めた今後の方針を考えていく。
○　外部講師登録リストの精選と外部講師への研修等による質の担保を図る。
○　外部講師の活用について、活用法の周知啓発を図っていく。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	茨城県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で 13 人【内訳：医師（２人）、学校医、がん体験者、がん体験者支援団体代表、公立小学校教諭（保健体育免許保有）、公立中学校保健体育科教諭、県立高等学校保健体育科教諭、公立小学校養護教諭、県保健福祉部地域ケア・推進課がん･生活習慣病対策推進室長、県教育庁義務教育課指導主事、県教育庁高校教育課指導主事、県教育庁保健体育課長】

２．開催時期、検討内容

７月16日（金）　第１回協議会（令和３年度がん教育推進計画の検討）出席者13名
１月14日（金）～21日（金）　第２回協議会（がん教育講演会実施報告、事業成果の検証）書面開催

②　教育委員会としての取組

１．がん教育に関する研修会

日時：11 月 18 日（木）～12 月１日（水）※事前動画視聴による研修（感染症対策のため）
12 月１日（水）※双方向型のオンライン研修
内容：高等・中等教育（後期課程）学校の保健体育科教員、希望する特別支援学校教員及び外部講師に対し、がん教育について理解を深めるため、外部講師経験のあるがん体験者による講義や高等学校の実践発表、班別研究協議（教員のみ）の研修を行った。【参加人数：教職員 101 人、外部講師】

２．児童生徒対象のがん教育講演会

小学校 13 校、中学校 10 校、高等学校５校、計 28 校の児童生徒を対象に、医師等やがん体験者による講演を行い、がんそのものの理解やがん患者等に対する理解を深めた。

【小学校 13 校】
水戸市立稲荷第二小学校、笠間市立大原小学校、茨城町立葵小学校
北茨城市立中郷第二小学校、潮来市立牛堀小学校
神栖市立須田小学校、鉾田市立鉾田南小学校、土浦市立中村小学校
石岡市立柿岡小学校、牛久市立岡田小学校、常総市立豊田小学校
つくば市立谷田部小学校、坂東市立内野山小学校

<タブレットを活用した授業>

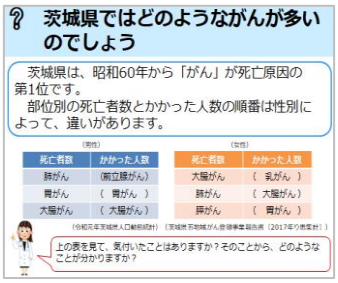
【中学校 10 校】
ひたちなか市立勝田第二中学校、高萩市立高萩中学校、
神栖市立神栖第一中学校、鉾田市立大洋中学校、石岡市立府中中学校
龍ケ崎市立城西中学校、牛久市立下根中学校、古河市立古河第一中学校
結城市立結城中学校、桜川市立岩瀬東中学校

【高等学校５校】
県立守谷高等学校、県立坂東総合高等学校、県立三和高等学校、県立境高等学校
県立古河中等教育学校

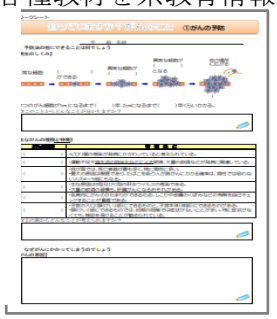
３．がん教育教材の作成・配付

がん教育教材「知っていますか？がんのこと」の作成・配付をするとともに、各種教材を県教育情報ネットワークへ掲載し活用促進を図った。

【配付対象】
・小学６年生、高校１年生、特別支援学校（小･高）
　リーフレット・リーフレットデータ
・中学２年生、特別支援学校（中）
　リーフレットデータ・ワークシートデータ
　教師用スライドデータ
・県内公立学校
　指導参考資料データ



<教師用スライド>



<ワークシート>

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・　県保健福祉部と連携・協力し、がん拠点病院等への講師登録依頼を行うとともに、引き続き、学校における講演会への協力を依頼した。
・教材や指導参考資料に掲載しているデータ等について、県保健福祉部の協力を得ながら修正を行った。
・　科学的な知識等の理解をねらいとした講演会においては、外部講師リストに登録している県内のがん拠点病院等の医師等から選定・派遣を行った。
・　健康や命の大切さの理解をねらいとした講演会においては、がん体験者団体が作成したリストを提供してもらい、学校及び地域の実情に応じて講師の選定・派遣を行った。
・　がん体験者団体のスピーカーバンクの研修会に県から担当者を派遣し、講演会実施に係る留意点等の共通理解を図った。

（２）モデル校における取組

小学校 13 校、中学校 10 校、高等学校５校、計 28 校において、各学校の計画に基づき、医師等又はがん体験者を講師として派遣し、講演会を開催した。発達段階や学校の実情に応じて目標を設定し、科学的な根拠に基づき正しい知識を身に付けるとともに、がん患者に対する正しい認識を深めることができた。

小学校においては、学級担任を中心に保健領域の病気の予防の授業と関連させて学級活動の中で取り扱ったり、県版のリーフレットに記載の読み物資料を活用して道徳科として取り扱ったりするなど、がん教育の目標を達成するために教育活動全体を通じて計画的に実施した。

中学校及び高等学校では、教科担任及び養護教諭を中心に保健の授業を核とし、講演会を発展的な学習として位置付けることで、より効果が高まるようにした。

<養護教諭による事前指導の様子>

<講演会で話合いをする様子>

<課題解決をする様子>

<家族へのメッセージを書く様子>

<別室からリモート講演をする様子>

【学年別受講児童生徒数】　（人）

学年	小4～6	中１	中２	中３	高１	高３	合　計
人数	764	102	808	540	567	165	2, 946
合計	764	1, 450			732		

【教職員、保護者、その他の参加】（人）

教職員	保護者	学校三師	その他	合計
208	44	0	13	265

（３）その他　<外部講師活用の工夫>

・　医師等を講師とした講演会では、指導の標準化を図るため、教育委員会で作成したスライドを活用し、指導内容の共通理解を図るとともに、講師が適宜活用できるよう配慮した。
・　がん体験者の講演を行うにあたっては、がん体験者団体が主催する研修会において、県の担当者ががん教育に関する国や県の動向及び講演会に係る留意点等を含めた内容を伝達するなど、事前に十分な打合せを行い、県の取組について共通理解を図った。
・　文部科学省作成のガイドライン、教材及び県版のリーフレット等を提供し、適宜活用するよう依頼した。
・　打合せ内容及び手順等を円滑に進めるため、学校へ配付している参考資料である「外部講師の活用にあたって」を外部講師へ提供し共通理解を図った。
・　外部講師登録をしている医療機関及びがん体験者団体に対し、県主催のがん教育指導者研修会（動画配信）の案内をし、参加を呼びかけた。
・　文科省主催の「がん教育指導者研修会」の開催を案内し、参加を呼びかけた。

２．事業の達成度について

がん教育講演会実施校（小学校 13 校、中学校 10 校、高等学校５校、計 28 校）の児童生徒を対象に、講演会の事前及び事後にアンケートを行い、その比較により第２回がん教育推進協議会において事業の評価検証を行った。

（１） 児童生徒の事前･事後アンケート結果（主なもの）＜令和３年度＞

［ １）がんの学習について ］

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。 [事前] [事後]

a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。」（そう思う）…… 79%→91%（+12）

b 「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。」（そう思う）…… 79%→90%（+11）

［ ２）知識編 ］

※「正しい」、「誤り」から選択。 [事前] [事後]

a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」（正しい）…… 93%→98%（+5）

b 「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」（正しい）…… 94%→92%（－2）

c 「がんは日本人の死因の第２位である」（誤り）…… 37%→73%（+36）

d 「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」（正しい）…… 91%→95%（+4）

e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」（正しい）…… 89%→96%（+7）

f 「体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい」（誤り）…… 82%→95%（+13）

g 「がんの治療法には手術治療しかない」（誤り）…… 76%→92%（+16）

h 「がんの痛みは我慢するしかない」（誤り）…… 84%→91%（+7）

［ ３）意識編 ］

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。 [事前] [事後]

a 「自分はがんにならないと思う」（思わない）…… 36%→48%（+12）

b 「将来、たばこを吸わないでいようと思う」（そう思う）…… 84%→88%（+4）

c 「日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）…… 63%→75%（+12）

d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」（そう思う）… 58%→75%（+17）

e 「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」（思わない）…… 23%→41%（+18）

f 「がんになっても生活の質を高めることができる」（そう思う）…… 18%→44%（+26）

g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」（そう思う）…… 71%→80%（+9）

h 「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」（そう思う）… 51%→66%（+15）

i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」（そう思う）…… 90%→93%（+3）

j 「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）… 80%→86%（+6）

（２）がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

児童生徒は、がん教育講演会を実施したことにより、がん教育の必要性を感じるとともにがんに関する正しい知識を身に付けることができた。また、習得した知識をもとに健康や命の大切さについて主体的に考え、実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

＜効果が上がったアンケート項目＞

・がん教育の必要性について〔１）がんの学習について a、b〕
・がんに関する正しい知識〔２）知識編 c、g〕
・がんの予防について（運動・食事・検診等）〔３）意識編 a、c、d、e、h〕
・がん患者への認識〔３）意識編 f、g〕

（3） 考察

多くの児童生徒が、がんは身近な病気であると認識し、がんの要因や予防のための基本的な知識、がんを予防するためのがん検診の重要性について理解を深めるとともに、がん患者に対する正しい認識や命の大切さについて理解を深めることができた。

小学校においては、健康と命の大切さを理解することを主なねらいとする学校が多く、13 校中 10 校ががん体験者の外部講師を活用して講演会を実施した。児童は、体験に基づいた講師の話に真剣に耳を傾け、予防することの大切さやがん検診の重要性について理解することができた。

中学校においては、保健の授業と講演会を効果的に関連付けて実施しており、がん教育の２つの目標のどちらに重点を置いて講演会を実施するのかによって講師を選定していた。講演会後には、がんについて理解した内容を振り返ったり、家族へのメッセージを書いたりする等、がんに関する知識のみならず、がんを通じて健康や命の大切さを実感することができた。

高等学校においては、保健の授業内容であるがんの原因、予防及び治療法等に関する学習の後に体験者の話を聞くことで、がん患者の思いを知り、社会の一員としてできることは何かについて主体的に考えることができた。

アンケートの結果から、児童生徒のがんに関する知識は概ね定着しつつあると考えられる。外部講師を活用した講演会の事前事後に授業を位置付け、計画的に実施したことで、児童生徒のがんにする知識及びがん患者への認識をより深めることができた。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

外部講師の登録数は年々増加傾向にあるが、学校での講演を経験していない講師も多い。今後、医師等やがん体験者による講演会を県内に広げていくためには、研修会を通じてより多くの外部講師の方に、学校におけるがん教育について理解を図る必要がある。

引き続き、県医師会や患者会、県保健福祉部と連携し、学校医等への協力を依頼するなど、外部講師の確保に努めるとともに、研修会について周知していく。また、県教育委員会担当者が講師として参加し、がん体験者団体と共通理解の下で講師の資質向上を図っているがん体験者研修会については、今後も継続していく必要がある。

これまで、学校からは、「外部講師との打合せのための時間の確保」及び「事前事後指導を含めた指導時間の確保」等の課題が挙げられていた。しかし、ＩＣＴ環境の整備が進んだことにより、学校の実情に応じた打合せ及び授業方法を工夫することができたため、円滑に進めることができた。今後も、状況に応じて、オンラインによる打合せやリモート講演会等の実施などの工夫が求められる。

がんを含む健康教育に関しては、児童生徒がいかに“自分のこととして捉えることができるか”が課題であるといえる。それらの課題を解決するためには、実感を伴った理解ができるよう発達段階やねらいに応じ、医師等やがん体験者の専門性を生かした講演会等を広めていく必要がある。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

指導者研修会として、県内の高等・中等教育（後期課程）学校の保健体育科教員及び希望する特別支援学校教員を対象に、外部講師経験のあるがん体験者の講義、前年度のモデル校である高等学校の実践発表、班別研究協議による指導案作成を実施した。

学校での取組に対する支援として、小学生向け・中学生向け・高校生向けのリーフレット教材及び教員のための指導参考資料を配付するとともに、中学校版教師用スライド及びワークシート等を作成し、授業での活用を推進した。

がん教育は、健康教育の一環として行われるものであり、児童生徒の発達段階に応じて行われるべきものである。そのため、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの指導内容及び系統性について、教員の理解が重要となる。今後、さらにがん教育を身近なものとするため、あらゆる機会を捉え、文部科学省によるガイドラインやモデル校の取組等について県内に周知していく。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	群馬県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１　構成員

全員で１４名【内訳：大学院教授２名（医学系研究科１名、保健学研究科１名）、大学附属病院腫瘍センター長１名、学校医２名（小児科、内科医）、学校歯科医１名、学校薬剤師１名、がん患者団体連絡協議会１名、ＰＴＡ連合会１名、高等学校ＰＴＡ連合会１名、県看護協会１名、県立がんセンター医師１名、保健所長１名、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課医監１名】

・事業を推進するに当たって中核をなす組織で、がん教育の推進を図るために作成する「がん教育に関する計画」に対し、指導、助言を行うとともに、進め方等について検討した。また、事業の成果の検証等を行った。

２　開催時期、検討内容

期　　日	場　　所	内　　容
10 月 6 日（水） 19:00～20:30	群馬県庁	・がん教育に関する計画について ・がん教育に関する教材、内容や進め方について ・がん教育推進のための外部講師整備体制等について
2 月	書面開催	・今年度の取組について ・「がん教育の手引き」「がん教育外部講師派遣窓口一覧」について

②　検討委員会について

１　構成員

全員で 14 名【内訳：大学教授１名（医学系研究科）、教員３名（小学校１名、中学校１名、高等学校１名）、養護教諭３名（小学校１名、中学校１名、高等学校１名）、指導主事５名（県内各教育事務所）、主査１名（市教育委員会事務局）、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課主任１名】

・実践推進校において、がん教育を具体的に展開するための計画及び実践内容等を検討した。

２　開催時期、検討内容

期　　日	場　　所	内　　容
11 月 9 日（火） 14:40～15:40	群馬県立館林商工高等学校 会議室	・館林商工高等学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・がん教育を推進する上での課題及び外部講師の活用について
11 月 17 日（木） 14:55～15:55	明和町立明和中学校 会議室	・明和中学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・県の取組について（外部講師相談窓口一覧、外部講師派遣のながれ等）
12 月 7 日（火） 14:50～15:50	明和町立明和西小学校 図書室	・明和西小学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・県内のがん教育実施状況について

③　教育委員会としての取組

6 月	○　関係機関と打合せ
7 月	○　がん教育に関する指導者研修会 7 月 15 日(木)　オンライン開催（総合教育センター） 1　講義　「がん教育の考え方・進め方」 講師　新潟医療福祉大学健康科学部 健康スポーツ学科　教授　杉崎　弘周 2　実践発表　「令和 2 年度がん教育の実践について」 発表者①　高崎市立豊岡小学校　山﨑　翔平　教諭 発表者②　高崎市立豊岡中学校　茂木　良太　教諭 発表者③　県立高崎北高等学校　柳澤　宏太　教諭 ○　情報収集等関係機関と打合せ
8 月	1　実践校事前アンケート実施及び集計 2　関係機関と打合せ、協議会及び検討委員会等開催準備 3　組織づくり(協議会) 4　文部科学省主催　8 月 23(月)～31 日(火)　動画配信 がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」について 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知 5　外部講師選定、派遣申請（明和中）
9 月	1　外部講師選定、派遣申請（館林商工高等学校・明和中学校） 2　がん教育の取組及び外部講師協力体制整備説明 第 13 回がん検診・がん予防　専門分科会（書面開催）
10 月	1　第 1 回協議会開催 10 月 6 日（水）　群馬県庁舎 2　実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）県立館林商工高等学校 3　実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）明和町立明和中学校
11 月	1　第 1 回検討委員会開催（県立館林商工高等学校） 2　第 2 回検討委員会開催（明和町立明和中学校） 3　実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）明和町立明和西小学校 4　「令和 3 年度がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧」作成について 関係機関との連絡調整
12 月	1　第 3 回検討委員会開催（明和町立明和西小学校）
1 月	1　実践校事後アンケート実施及び集計 2　まとめ及び協議会資料作成
2 月	1　文部科学省主催　2 月 1 日(火)～7(月)　〔オンライン開催〕 がん教育ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知 2　第 2 回協議会開催（群馬県庁舎）書面開催
3 月	○　群馬県学校保健審議会（書面開催）

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

1　がん診療連携拠点病院、群馬県がん診療連携推進病院、小児がん連携病院の協力のもと、健康福祉部感染症・がん疾病対策課と連絡調整し、「令和３年度がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧」を作成した。あわせて、「がん教育の手引き」のなかで、外部講師派遣フローを示し、外部講師派遣実施要項及び様式集と共に関係機関へ通知した。

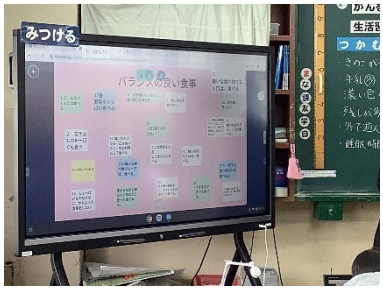
2　平成 25 年度から県内の小学校６年生を対象に、健康福祉部感染症・がん疾病対策課が作成した「群馬県の小学校 6 年生にどうしても知っておいて欲しいこと そうだったのか！がんのこと。」が希望校へ配布さている。

　がん教育に関する授業で活用したり、保護者に啓発したりできるよう参考資料を作成し、令和３年度においても県内小学校等に配布した。

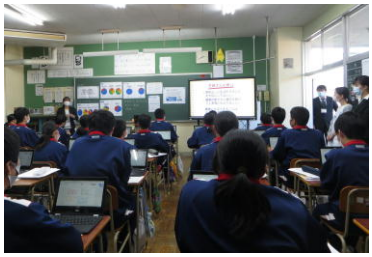
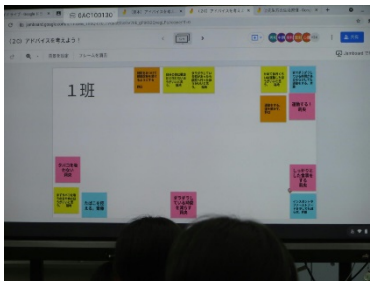
（２）モデル校における取組

①小学校　明和町立明和西小学校　第６学年

時期	時間	内　容
11 月 22 日	学級活動	○がんについての正しい知識を身に付ける。 ・外部講師（保健師）から、がんの予防や治療法について学ぶ ○生活習慣のアンケートをとることで、自己の生活習慣について理解する。 ・アンケートにより、自己の生活習慣を振り返る。 ・計画委員がアンケートを集計・まとめ、興味・関心を高められるようにする。
12 月 7 日	学級活動	○題材名　「がんから命を守るために、自分にできることを考えよう」 ○題材の目標　「基本的な生活習慣や現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することの大切さを理解するとともに、自己の生活を振り返って課題に気付き、学級での話合いを通して、友達の意見などを参考にしながら解決方法を考え、よりよい方法を意志決定し、解決に向けて行動できるようにする。」 ○本時のめあて 「がんを予防するために自分の生活習慣を改善しよう。」 (1)事前アンケート（生活習慣）結果を振り返り、気付いたことや課題を発表する。 (2)健康に良い生活習慣とは何か考える。 ・１学期の保健の授業や事前学習の外部講師(保健師)による授業を想起し、望ましい生活習慣について考える。 ・喫煙や飲酒についての意見が出ない場合は、身近な大人の立場で考えさせる。 (3)各項目について班ごとに（食生活：①～⑥・運動：⑦～⑫・ストレス解消⑬～⑱・睡眠⑲～㉕）について、具体的な解決策を考える。 ・ＩＣＴ(ロイロノート)を活用し、全員の意見を１つに集約することで、友達の考えにも触れられるようにし、考えを広げられるようにする。

		（個人→班→全体） ・たくさんの意見に触れることで、自分で「がん予防チェックシート」を作成する際、参考にする。 (4) 具体的な生活目標を決め、自分の「がん予防チェックシート」を作成し、グループで話し合ってよりよい目標にする。 ・チェックシートを撮影し、ロイロノートを活用することで、グループで視覚的にも共有できるようにする。 （個人→班→全体） ・1 週間チェックシートに沿って生活し、振り返ったり改善したりしていくことを聞いて自分たちでで　きることは何か考える。 (5) 本時の授業を振り返る ・チェックシートの中に本時の振り返りを書く欄を設けることで、1　週間後の振り返りの際に比較できるようにする。 
事後	継続	○がん予防チェックシートに沿って生活し、振り返り改善できるようにする。 ・生活目標を意識して取り組めるよう言葉がけをすることで、振り返ることができるようにする。 ・チェックシートによる生活習慣の見直しを継続して行うことで、体や気持ちの変化や望ましい生活習慣の大切さに気付かせる。
12 月 20 日	学級活動	講演　「がんが教えてくれたこと」 ○がん経験者の話を聞いて、健康と命の大切さやがん患者への正しい理解をする。 ・がんになっても病気と向き合って　充実した生活を送ることができることを学ぶ。
12 月	総合の時間	○がんについてまとめる。 ・ＩＣＴを活用し、がんについて学習したことをまとめ、「明西がん　教育通信」を作り、家庭に発信する。 ・家族へ伝えたい思いも載せることで、家族も自分事として捉えら　れるようにする。

②中学校　明和町立明和中学校　第２学年

時期	時間	内　容
9 月 17 日	総合的な学習の時間	講演「がんが教えてくれたこと」 〇がん経験者の思いなどを聞くことで、健康や命の大切さについて考え、今後の学習に生かす。
2 学期	家庭科	〇がんのリスクを低下させるための献立を考える。
11 月 17 日	保健体育	〇健康な生活と疾病の予防　（内容：がんの予防） 指導者　T1 保健体育科教諭　T2 養護教諭 がんの予防や早期発見の大切さについて理解し、身近な人へ伝えようとすることを通して、大切な人が健康に生活できるためのメッセージを考えられるようにする。 (1)前時の学習内容を振り返る ・講演会の内容を想起させる。 (2)がんにならないためにできることを知る。 ・生活習慣アンケートの結果をもとに生徒の実態を説明する。 ・がんを予防するために、自分ができることや生活の中で改善していきたいことをワークシートに書く。 (3)がん検診の種類や有効性と、日本での受診率現状について知る。 (4)がん検診の種類や有効性と、日本での受診率の現状について知る。 (5)事例にあるＡさんへ、がんリスクを減らすためのメッセージを考える。 （個人→班→全体） (6)身近な人（先生）へのメッセージを考える。（個人→班→全体） (7)学習内容を振り返る 学習した内容を生かして家族へのメッセージを伝えたいと思いをもてるようにし、自分や家族の健康について考えられるようにする。また、自分の生活も改善できるよう取り組む。  
12 月	総合的な学習の時間	〇がんについて学習したことをまとめて、命や健康の大切さについて身近な人へ伝えることができる。 ・これまでの学習を通して学んだことをグループごとにスライドにまとめ、１年生に向けて発表する。

③高等学校　群馬県立館林商工高等学校　　第１学年

時期	時間	内　容
11 月 1 日	LHR	**講演**　「おしゃべりしましょ！がんのこと」 〇がん経験者の思いなどを聞くことで、健康や命の大切さについて考え、今後の学習に生かす。
11 月 9 日	保健体育	○単元名「現代社会と健康」 健康の保持増進と疾病の予防　「生活習慣病と日常の生活行動」 がん患者やがん経験者、またその家族や身近な人たちとのかかわり方について考え、がん患者の思いを理解し、がん患者と共に生きる社会について考えられるようにする。 〈補助教材〉　文部科学省「がん教育プログラム」 (1)本時の目標確認と基礎知識の復習 (2)がんについて考える① 「もしあなたががんになってしまったらどうしますか。」 ・外部講師による授業内容の復習及びその感想を共有する。 ・スライドを見ながらがん患者の思いについて学ぶ。 (3)がんについて考える② 「大切な家族や親友、パートナーが「がん」になってしまったらどうしますか」 ・自分だったら、どんな言葉を掛けてもらいたいか考える。(個人→ペア→全体) ・スライドから 3 つの事例を紹介し、がん患者との接し方を考える。 ・がん患者が暮らしやすい社会とは、どのような社会なのかを考える。 (個人→ペア→全体) ・スライドを見ながら、がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会なのかを学ぶ。 (4)本時の振り返り ・将来の自分へのメッセージでもあることを踏まえ、ワークシートへ記入する。

２．事業の達成度について

①小学校　明和町立明和西小学校　第６学年　児童アンケートから

【がんの学習について】　（ n＝72 ）　（ n＝72 ）

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	78	21	1	0	85	13	1	1
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	82	15	0	3	85	13	1	1

	質　問	事前（%）		事後（%）	
		正しい	誤り	正しい	誤り
a	(ｱ) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	83	17	90	10
b	(ｲ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがる。	99	1	97	3
c	(ｳ) がんは日本人の死因の第２位である。	67	33	60	40
d	(ｴ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	96	4	99	1
e	(ｵ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	87	13	96	4
f	(ｵ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	97	3	97	4
g	(ｶ) がんの治療には手術治療しかない。	76	24	94	6
h	(ｷ) がんの痛みは我慢するしかない。	89	11	89	11

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ｱ) 自分はがんにならないと思う。	54	35	11	0	0	37	63	0
b	(ｴ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	89	5	3	3	83	7	4	6
c	(ｴ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	64	35	1	0	69	31	0	0
d	(ｵ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	62	32	5	1	67	28	5	0
e	(ｶ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	16	42	28	14	43	28	15	14
f	(ｸ) がんになっても生活の質を高めることができる。	8	30	38	24	26	28	29	17
g	(ｹ) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	85	15	0	0	76	24	0	0
h	(ｺ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	53	46	1	0	64	36	0	0
i	(ｺ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	99	1	0	0	99	1	0	0
j	(ｺ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	82	18	0	0	88	12	0	0

②中学校　明和町立明和中学校　第２学年　生徒アンケートから

【がんの学習について】　（ n＝88 ）　（ n＝88 ）

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	77	23	0	0	100	0	.0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	79	20	0	1	97	2	0	1

	質　問	事前（%）		事後（%）	
		正しい	誤り	正しい	誤り
a	(ｱ) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	99	1	100	0
b	(ｲ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがる。	99	1	97	3
c	(ｳ) がんは日本人の死因の第２位である。	74	26	27	73
d	(ｴ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	94	6	97	3
e	(ｵ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	93	7	97	3
f	(ｵ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	4	96	0	100
g	(ｶ) がんの治療には手術治療しかない。	23	77	4	96
h	(ｷ) がんの痛みは我慢するしかない。	12	88	5	95

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ｱ) 自分はがんにならないと思う。	8	19	28	45	4	15	23	58
b	(ｴ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	93	3	3	1	96	4	0	0
c	(ｴ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	54	45	1	0	74	26	0	0
d	(ｵ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	47	48	4	1	78	21	1	0
e	(ｶ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	22	33	19	26	8	24	20	48
f	(ｸ) がんになっても生活の質を高めることができる。	20	29	37	14	41	37	13	9
g	(ｹ) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	70	29	1	0	88	12	0	0
h	(ｺ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	31	52	11	6	62	38	0	0
i	(ｺ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	97	3	0	0	100	0	0	0
j	(ｺ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	79	19	1	1	85	15	0	0

③高等学校　群馬県立館林商工高等学校　　第１学年　生徒アンケートから

【がんの学習について】　　（ n＝151 ）　　（ n＝119 ）

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	85	15	0	0	96	4	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	78	21	1	0	92	8	0	0

	質　問	事前（%）		事後（%）	
		正しい	誤り	正しい	誤り
a	(ｱ) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	97	3	99	1
b	(ｲ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがる。	99	1	98	2
c	(ｳ) がんは日本人の死因の第２位である。	47	53	41	59
d	(ｴ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	93	7	97	3
e	(ｵ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	98	2	100	0
f	(ｵ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	9	91	3	97
g	(ｶ) がんの治療には手術治療しかない。	18	82	6	94
h	(ｷ) がんの痛みは我慢するしかない。	13	87	6	94

	質　問	事前（%）				事後（%）			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ｱ) 自分はがんにならないと思う。	5	18	32	45	2	24	28	46
b	(ｴ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	87	9	1	3	93	3	2	2
c	(ｴ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	51	42	5	2	62	34	3	1
d	(ｵ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	56	32	10	2	70	26	2	2
e	(ｶ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	28	27	27	18	14	21	27	38
f	(ｸ) がんになっても生活の質を高めることができる。	21	35	30	14	34	34	24	8
g	(ｹ) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	70	26	3	1	82	17	1	0
h	(ｺ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	45	36	13	6	64	31	3	2
i	(ｺ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	94	5	0	1	96	4	0	0
j	(ｺ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	78	21	0	1	88	11	1	0

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（成果）

児童生徒：・小中高校生のがん教育にとって、外部講師の活用、がん体験者の話は、大変有効であることを再認識した。

・ICT 活用による話合い活動により、全ての児童生徒が自分の意見をもつことができ、本音で考えていた。

・がんに関する内容の正しい知識を身に付けたことで、学習の前後でがんに対する考え方に変容が見られた。

教職員等：・事前の外部講師による講演会が生かされた導入により、本時の授業が良いかたちでスタートすることができた。

・がん教育について必要性を感じ、認識の変化が見られた。また、各学校で行う授業の手立てを示すことができ、今後の方向性を明確にすることができた。

（課題）

・外部講師の確保、外部講師リストの作成など外部講師整備体制の構築

・コロナ禍における指導主事、教職員などへの研修会等によりがん教育に関する具体的な取組の継続した啓発

（令和４年度の取組について）※国費での取組

・令和４年３月に作成した「がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧」および「がん教育の手引き」については、指導者研修会等で説明し、群馬県内の各学校が活用できるよう周知していく。

・「がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧」にある群馬県内でがんの診療等を行う病院（18病院）には、令和4年5月中旬頃、がん教育外部講師派遣について協力の継続依頼をし、6月上旬までに継続の了承を確認した上で、令和４年度版を発出する。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・教職員、外部講師等を対象としたがん教育に関する研修会の継続開催及び内容の充実

・今年度作成した「がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧」および「がん教育の手引き」について、活用しての御意見や要望をまとめ、がん教育の推進を図る。

・外部講師派遣後の「がん教育実施結果アンケート」結果から、各校の外部講師活用状況を把握し、外部講師の確保など外部講師整備体制の構築を図る。

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	埼玉県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で２３人（内訳：大学准教授１人、がん専門医１人、医師会１人、がん経験者１人、校長３人、市町村教育委員会指導主事２人、教諭４人、養護教諭４人、県保健医療部１人、県教育局５人）

委員のうち学校関係者については、原則として各団体等からの推薦によるものとし、「校長会（小・中・高）」「学校体育連盟等（小・中・高）」「養護教諭会」と連携した。また、「医師会」「保健医療部疾病対策課」と連携した。

２．開催時期、検討内容

・第１回協議会　令和３年７月１６日（金）（がん教育推進計画の検討・決定）
・第２回協議会　令和４年１月１４日（金）（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）
※第２回協議会については、まん延防止等重点措置期間の為、オンライン会議とした。

②　教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（学校の教職員・教育委員会の担当者・外部講師等を対象）

教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として開催した。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、実践者（小・中・高）による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師等の資質向上を図った。

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

・小学校授業研究会　学級活動（２）　（会場：草加市立八幡小学校）
・中学校授業研究会　保健体育科保健分野　（会場：加須市立加須平成中学校）
・高等学校授業研究会　保健体育科科目保健　（会場：県立北本高等学校）

○実施報告書の作成及び普及

研修会資料や実践授業の学習指導案等を掲載した実施報告書を作成し学校等に送付するとともに、県ＨＰに掲載した。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○保健医療部疾病対策課が実施する「がん教育出前講座」の、学校への周知等の連携

○保健医療部疾病対策課と連携した「がん教育外部講師派遣」の実施

学校からの依頼を受け、県の登録外部講師から条件（講師種別・指導内容・日時・謝金等）に合致する外部講師を選定し、通知した。

○保健医療部疾病対策課と連携した「外部講師研修会」の開催

外部講師（医療関係者、がん経験者等）及び市町村教育委員会の指導主事等を対象に、外部講師を活用したがん教育を実施する上での留意事項や効果的な進め方についての行政説明、外部講師実践者（医師・がん経験者）による講義（実践事例紹介等）を通して、外部講師の資質向上に資することを目的として開催した。

○埼玉医科大学総合医療センターが実施する「がん教育セミナー」についての連携

地域がん診療連携拠点病院である埼玉医科大学総合医療センターが、学校教職員や医療関係者等を対象に実施するセミナーについて、教育委員会が後援するとともに内容の検討及び実施について連携した。

（２）モデル校における取組

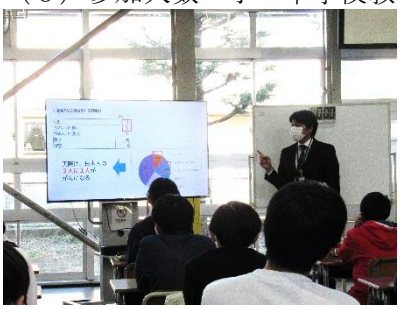
○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

・小学校授業研究会

体育科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動の教科等横断的な取組を実施。公開授業では、学級活動（２）において「病気の予防や望ましい生活習慣の確立」及び「自他の健康や命、人との関わりを大切にし、共に生きていく態度」について意思決定する内容で教師と外部講師（がん専門医）によるＴ・Ｔ（ティーム・ティーチング）による指導方法の工夫を取り入れることにより、児童は自分事として捉えるとともに、具体的な意思決定をすることができた。

（１）日　時　　令和３年１１月３０日（火）
（２）参加者　　小・中学校教職員（教諭、養護教諭、保健主事等）、
　　県立特別支援学校教職員及び指導主事
（３）会　場　　草加市立八幡小学校
（４）授業者　　佐藤　優樹　教諭、儀賀　理暁　教授（埼玉医科大学総合医療センター）
（５）題　材　　特別活動　第６学年　「健康な生活と命の大切さ」
　　学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
　　イ　よりよい人間関係の形成
　　ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成
（６）参加人数　小・中学校教職員、特別支援学校教職員、指導主事、医師、行政担当者等　６４人


発表映像（児童製作）視聴の様子

意思決定した内容を伝え合う様子

三者による対話の様子

・中学校授業研究会

保健体育科保健分野において、身近な生活における「運動・食事・休養及び睡眠・歯みがき」の各項目とがんの関係を班に分かれてＩＣＴ機器を活用して調べ、その内容を全体で共有した後、生徒一人一人が「がんの予防に向けて、今そしてこれからの自分にできることはなんだろう」に対する具体的な生活習慣の改善や行動目標を決定する授業を実施した。予防行動に関する具体的な内容に加えて、情報リテラシーに関わる内容も盛り込まれた授業で、生徒の現在及び将来の健康の保持増進向けた実践につながる内容であった。

（１）日　時　　令和３年１０月２６日（火）
（２）参加者　　会場校教職員等
（３）会　場　　加須市立加須平成中学校
（４）授業者　　澁谷　裕貴　教諭
（５）単　元　　保健体育科（保健分野）第２学年「（１）健康な生活と疾病の予防」
　　（ウ）生活習慣病などの予防
（６）参加人数　会場校教職員等　２５人

がんのイメージを確認する様子

ICT 機器を活用した調べ学習の様子

教師による話の様子

・高等学校授業研究会

保健体育科科目保健の授業を実施した。各班に違った資料を分析させ、全体で共有する中で各資料を結び付けて考えさせる、知識構成型ジグソー法の要素を取り入れた、思考力・判断力・表現力を重視した学習活動により生徒の理解を深めることができた。また、「どうすればがん検診の受診率を上げることができるか」という、習得した知識を活用する学習活動にも取り組むなど、がんを題材として、社会的な取組も含めた発達の段階に応じた総合的な理解を深めることができた。

（１）日　時　　令和３年１１月１２日（金）
（２）参加者　　高等学校・特別支援学校教職員等
（保健体育科、養護教諭、保健主事等）
（３）会　場　　県立北本高等学校
（４）授業者　　川尻　鈴ノ介　教諭
（５）単　元　　保健体育科（科目保健）第１学年「（１）現代社会と健康」
（ウ）生活習慣病などの予防と回復
（６）参加人数　高等学校・特別支援学校教職員、がん経験者、行政担当者等　２１人

調べた内容を発表する様子

グループワークの様子

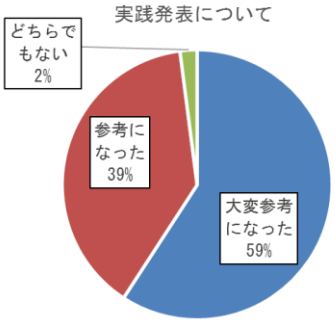
教師による支援の様子

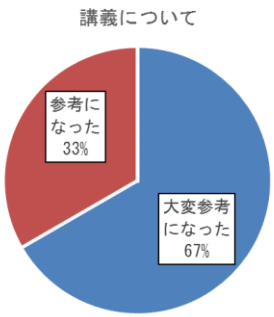
２．事業の達成度について

（１）「 がん教育 」指導者研修会

ア　がん教育に携わる教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ　行政説明において、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付けの例を挙げるなど、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。





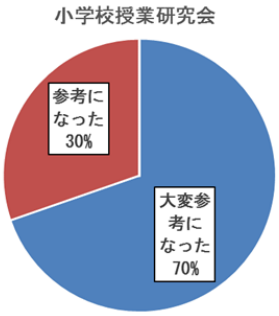
ウ　筑波大学名誉教授　野津　有司氏による講演「学校におけるがん教育の推進～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」により、新学習指導要領に基づくがん教育をはじめとする保健教育の効果的な指導方法など授業づくりの考え方、進め方について理解を深めることができた。

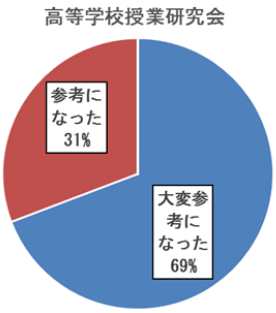
（２）授業研究会について

ア　新型コロナウイルス感染症の影響により、授業検討委員会の実施は叶わなかったが、授業者及び関係の指導者が授業計画段階から綿密に打ち合わせや検討を重ねたことにより、各学校種の発達段階に応じた効果的な指導方法の提案ができた。また、公開授業による実践を踏まえた充実した研究協議を行うことができた。

イ　高等学校モデル校において、来年度からの年次進行実施を見据え、新学習指導要領を踏まえた授業内容を検討し、実践したことにより、各学校において参考となる学習指導案及びワークシートを作成することができた。

ウ　文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及･推進を図ることができた。





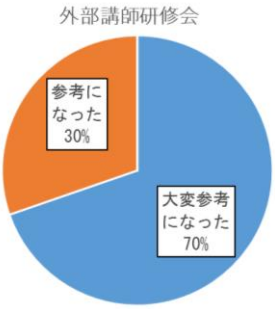
※中学校は、校内教職員のみ参加の為、アンケート未実施。

（３）外部講師研修会について

ア　外部講師を活用したがん教育を実施する上での留意事項や効果的な進め方についての行政説明、外部講師実践者（医師・がん経験者）による講義（実践事例紹介等）を通して、外部講師の資質向上に資することができた。

イ　質疑応答では、講師を介して、様々な立場や団体の方同士の交流ができ、外部講師同士が連携するきっかけとすることができた。

ウ　県登録の外部講師としての参画について、多くの方々から協力の意思が確認でき、外部講師の人材確保につながった。



（４）外部機関・外部講師との連携について

ア　医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター　教授　儀賀理暁　氏が中心となり実施する、「がん教育セミナー」では、医療関係者と教育関係者が共に研修を行ったことで、各々の取組内容を情報共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える機会となった。

イ　小学校の授業研究会において、教師と外部講師（がん専門医）とのＴ・Ｔによる指導を実施し、オンラインコミュニケーションツールを活用した事前打ち合わせにより学校と外部講師が共通理解することのメリット、インタビュー形式による効果的な授業展開など、外部講師と連携したがん教育の今後の一層の推進につながる提案ができた。

ウ　保健医療部疾病対策課と連携した「がん教育外部講師派遣」について、取組を開始した令和２年度の派遣実績が７校（新型コロナウイルス感染症も影響）であったのに対し、２年目となる令和３年度の派遣実績は２６校と増加した。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（１）各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア　がん教育について明記された新学習指導要領について、令和３年度には中学校において全面実施され、令和４年度には高等学校において年次進行で実施されることから、各学校種において新学習指導要領に対応したがん教育を効果的に実施できるよう周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。

イ　がん教育の目標を達成するためには、保健の授業でがんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくことが必要である。体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ　小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

（２）外部講師の活用について

ア　保健医療部疾病対策課「がん教育出前講座」は、引き続き連携・協力していく。

イ　外部講師の選定・依頼・派遣については、保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めている。外部講師を対象とした研修会を開催するとともに、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。

ウ　外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加も促していく。

（３）研修会等の充実と普及・推進

ア　児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ　がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成
・外部講師の育成、外部講師の派遣体制の整備（人材確保と資質向上）
・モデル校での授業実践例の周知とがん教育の確実な実践

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	神奈川県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員　14 名（オブザーバー１名を含む）

内訳

氏名	所属及び役職
片山　佳代子	群馬大学情報学部情報学科　准教授
助友　裕子	日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科　教授
佐々木　治一郎	北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門　臨床腫瘍学教授
長谷川　一男	神奈川県がん患者団体連合会　理事
石井　貴士	公益社団法人神奈川県医師会理事
磯崎　哲男	公益社団法人神奈川県医師会理事
鵜塚　康祐	神奈川県ＰＴＡ協議会執行役員
井上　武仁	神奈川県中学校体育連盟研究部会会長
宮澤　陽子	神奈川県学校保健連合会養護教諭部会部会長
山中　毅	神奈川県子どもみらい局子どもみらい部私学振興課長
下山田　義行	神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課長
古島　そのえ	神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長
富澤　桂子	神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課長

オブザーバー

氏名	所属及び役職
田川　尚登	NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト　代表理事

事 務 局：神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課

連携部局：神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

２．開催時期、検討内容

第１回神奈川県がん教育協議会　書面及びオンラインの併用開催６月 28 日（月）から７月２日（金）

（１）報告事項

ア　神奈川県におけるがん教育の取組について

イ　令和２年度　がん教育総合支援事業　事業成果報告について

ウ　令和２年度　がん教育実施状況について

（２）協議事項

ア　令和３年度がんの教育総合支援事業計画について

イ　令和３年度　神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について

ウ　令和３年度　神奈川県外部講師を活用したがん教育授業実施校について

エ　外部講師の活用について

オ　がんを知ろう！～指導用補助資料～について

カ　神奈川県におけるがん教育の４か年計画

（３）その他

ア　神奈川県「がんを知ろう！」資料の使用許可申請について

第２回神奈川県がん教育協議会　オンライン開催２月４日（金）

（１）報告事項

ア　令和３年度神奈川県がん教育の取組について

イ　令和３年度におけるがん教育実施状況調査について

（２）協議事項

ア　令和４年度がん教育の取組について

イ　神奈川県版がん教育ガイドラインについて

（３）その他

②　教育委員会としての取組

〇がん教育協議会の開催

〇がん教育指導者研修講座の開催

・第１回がん教育指導者研修講座

※新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、オンデマンド形式開催

参加人数　177 名

（小学校 20 名、中学校 101 名、高等学校 26 名、特別支援学校３名、その他 27 名）

・第２回がん教育指導者研修講座

※新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、オンライン開催

参加人数　28 名

（小学校４名、中学校１名、高等学校３名、その他 20 名）

〇がん教育ワーキンググループの開催

・神奈川県版がん教育ガイドライン作成について）

〇各種教材の内容検討

〇各種会議等での「がん教育」の必要性や研究授業の実施について説明

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

〇神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課との連携

・研修会等での講師紹介

・がん教育教材（指導用補助資料、スライド教材）の作成

（２）研究授業における取組

〇外部講師を活用した「がん教育」研究授業の実施

・藤沢市立藤ヶ岡中学校　R3.11.19/11.26　総合的な学習の時間　生徒 279 名　教職員等 ７名

・横須賀市立久里浜中学校　R3.12.8　保健体育（保健分野）　生徒 39 名　教職員等 １ 名

・横浜市立鉄小学校　R3.12.13 体育（領域保健）　生徒 14 名　教職員等 ２名

・相模原市立田名中学校　R3.12.21　保健体育（保健分野）　生徒 300 名　教職員等 ８名

・神奈川県立神奈川工業高等学校（定時制）　R3.12.23　保健　生徒 26 名　教職員等 ２名

・神奈川県立三浦初声高等学校　R4.1.24　物理

※新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大の影響を受け、中止とした。

※藤沢市立藤ヶ岡中学校、相模原市立田名中学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインを活用して実施した。

２．事業の達成度について

１　がん教育協議会の開催

・神奈川県でのがん教育の現状について関連部署等と共有し、国の最新の動向や先進事例等を把握するとともに、課題を明確にし、県の取組に活かせた。

２　がん教育指導者研修講座の開催

・学校教職員が、がん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を高められた。また、外部講師活用についてその意義を理解できた。

・研修において、外部講師等と学校教職員との交流会を設定し、双方の理解を深めることができた。

３　外部講師を活用したがん教育研究授業の実施

・研究授業の様子を関係者等が、動画で視聴することにより、課題や情報を共有し、外部講師活用の意義や必要性が普及できた。

・外部講師等の活用方法や、授業での実施内容、方法について、研究協議にて課題等を共有することができた。

・外部講師の授業を広くに発信できた。

５　各種の会議等で「がん教育」の必要性・研究授業の実施について説明

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

１　教師の指導力の向上

・小・中学校における新学習指導要領の全面実施され、来年度は高等学校において年次実施であることにより、さらに各教科における指導力向上が求められる。

２　がん教育関係教科のがん教育への関わりを推進

・保健体育の授業は基より、保健体育科目以外でがん教育に関わる教科・科目のおいて学習を深めたり、関連させることが必要である。そのため、保健体育科教諭以外の教諭が研修へ参加できるようにし、がん教育の意義を広める必要性がある。

３　外部講師を活用したがん教育の普及推進

・各校で外部講師を活用したがん教育が普及促進するよう、その依頼先や相談窓口を周知するなどが必要である。

・がん教育の内容や目的に合わせた外部講師の確保が必要である。

４　外部講師のリスト化及び派遣システム構築

・医師等の医療関係者の外部講師のリストは関係部署と連携しながら作成している。学校のニーズと一致するよう、関係機関へ周知していく必要がある。

・各学校ががん教育の内容や目的に合わせ、外部講師を選択し、依頼できるシステムの構築が必要である。

５　外部講師の研修体制の確立

・外部講師として、学校においてがん教育を実施する者に対して、関係機関と外部講師の確保・育成について検討していく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

〇がん教育教材（指導用補助資料、スライド教材）の作成

〇授業等での講師紹介依頼への対応

令和３年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	新潟県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

○　合計：８名

○　内訳：がん専門医１人、医師（地域医療）１人、大学教授２名、がん経験者１名、校長１名、県福祉保健部局１名、教育委員会１名

２．開催時期、検討内容

○　第１回推進協議会

期日：令和３年９月 10 日（金）　内容：がん教育の推進に向けた検討

○　第２回推進協議会

期日：令和４年２月３日（木）　内容：がん教育に関する計画の検証及び今後の取組に対する協議

②　教育委員会としての取組

○　教員及び外部講師の研修

県内高等学校保健体育科の教員を対象とした研修会において、がん教育に関する学習指導要領の内容、がん教育の指導のポイントや留意事項、外部講師の活用等について取扱い、授業実践に向けた指導力の向上を図った。

がんに関係する機関等（医療従事者、がん経験者等）に対して、外部講師リストの作成の協力を依頼すると共に、外部講師活用の効果及び指導留意事項等をまとめた資料を作成し配付した。

○　外部講師リストの作成及び外部講師による映像教材の作成

学校が外部講師を活用した授業や講演等を実施する際に活用可能なリストを作成した。

また、外部講師の依頼が困難な学校等が、それぞれの授業計画に応じて活用できる外部講師（タレント・がん検診受診者）によるメッセージ映像を作成した。

○　授業指定校の教材や取組等を教職員が活用できる体制づくり

県立高等学校３校の授業指定校が実践した授業の学習指導案等を、県内公立学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）、市町村教育委員会に周知した。

上記の外部講師のメッセージ映像及び授業指定校が実践した学習指導案等を収録した「がん教育授業実践資料」（ＣＤ-ＲＯＭ）を作成し、県内公立学校に配付した。これにより、離島や山間地域等の環境面の課題から、外部講師の活用が困難な場合が想定される学校においても、各学校の指導計画に応じて活用可能な教材の充実につながった。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○　外部講師リストの作成にあたり、県福祉保健部局、医療機関及びがん患者の会等と連携することで、リストの掲載人数の充実につながり、学校が、児童生徒の発達段階や学校の実情に応じて、外部講師を選択できる資料とすることができた。

（２）モデル校における取組

【新潟県立巻総合高等学校】

○　テーマ：「がん」との共生　～「がん」と共に、「がん患者」と共に～

○　外部講師：がん検診受診者（タレント）

○　２学年、２時間（授業１時間、外部講師講演１時間）

○　１時間目に、保健体育科教諭が授業を担当し、がん患者に対する理解やがんとの共生の課題について、グループワークを実施した。授業の最後に、次時に外部講師を担当する、地域で活躍するタレントが出演するメッセージ映像を上映し、がんについての理解及び、次時に行われる講演会への興味関心につなげる内容とした。

　２時間目に、メッセージ映像に出演したタレントが外部講師を担当し、がん検診の受診から治療にいたる体験談に加え、生徒の関心が高まるよう、実業系高校の特性を踏まえ、自己実現等のキャリア教育の内容を交えた講演とする工夫がされていた。

　メッセージ映像にタレントを起用することで、生徒が自宅のテレビ等で外部講師を確認した際に、家族とがん教育について話すきっかけにつながることを効果の１つのねらいとした。

【新潟県立新発田高等学校】

○　テーマ：がんの予防についての理解と意思決定・行動選択

○　外部講師：医師

○　２学年、２時間（授業１時間、外部講師講演１時間）

○　１時間目は、保健体育科教諭が担当した。医療系コースが設置された学校であり、医療系大学への進学を目指す特徴を踏まえ、学習指導要領の内容に加え、子宮頸がん及びＨＰＶワクチンを題材とした発展的な内容で授業を行った。学校の特徴や生徒の興味関心をより引き出す授業展開をねらいとし、がん予防をテーマに課題学習を行った。

　２時間目は、医師を外部講師に招き、１時間目に学習した内容を、医師による専門的な立場から説明を受け、生徒のがんに対する理解を深める内容とした。

【新潟県立佐渡総合高等学校】

○　テーマ：がんを通して考える家族の健康

○　外部講師：がん経験者（小学校教諭）

○　１学年、２時間（授業１時間、外部講師講演１時間）

○　１時間は、保健体育科教諭が担当し、学校が設置されている地域の家族構成が、祖父母と同居家庭が多い状況を踏まえ、家族が「がん」に罹患した場合について考えるグループ学習を実施した。

　２時間目は、がん経験者が外部講師を担当し、学校が離島にあり、天候等の状況から、外部講師の派遣が困難な場合が想定される課題を踏まえ、ICT を活用し、オンラインによる外部講師講演を実施した。また、外部講師による講演では、がん患者の理解に加え、がん患者の家族の心情について考えさせるために、親ががんに罹患した際のお子さんの気持ちについて、外部講師のお子さんからのメッセージ映像を上映する工夫を行い、生徒のがんに対する理解を効果的に深める工夫とした。

２．事業の達成度について

○　授業指定校の取組における発達段階に応じた継続的ながん教育の充実について

これまでのがん教育の推進において、小・中学校を中心に授業実践及び授業活用資料等の教材を作成してきたが、令和４年度から高等学校学習指導要領が年次進行で実施されることを踏まえ、がん教育は、発達段階に応じた継続的・系統的な推進が重要とされていることから、授業指定校による授業実践を高等学校に特化した取組とした。

各学校の課題や実情を考慮した授業実践を行うことで、下記のアンケート結果から見えるように、生徒の意識の変化が大きく、がん患者に対する理解及びがんとの共生に関する項目等、高等学校のがん教育に関する内容について、生徒の理解が向上した成果を得ることができた。

【生徒の授業前後のアンケート結果】	（前）　（後）
・　がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	77.4%→88.8%
・　日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	50.8%→62.2%
・　がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	50.4%→62.9%
・　がんになっても生活の質を高めることができる。	20.8%→46.2%
・　がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	36.1%→58.6%

○　教員や外部講師の資質向上を目的とした教育研修会の実施について

次年度より高等学校における保健の授業で「がん教育」が開始されることから、高等学校の保健体育科教員を対象として、学習指導要領の内容、がん教育の指導のポイントや留意事項、外部講師の活用等について研修を行った。指導内容や外部講師の活用効果等について事例等を踏まえ具体的に伝えることで、教員のがんに対する理解の向上及びがん教育を行うことに対する意識の啓発につなげることができた。

また、がんに関係する機関（医療機関やがん経験者の会等）に対して、学校におけるがん教育における外部講師活用の効果や指導上の留意事項等をまとめた資料を作成し、外部講師リストへの協力依頼と共に配付し周知した。学校におけるがん教育の資料を配付することで、特に、児童生徒への指導に不安があるがん経験者に対して、学校におけるがん教育の理解につなげることができた。

○　外部講師リストの作成及び外部講師による映像教材の作成について

児童生徒のがんに対する理解を効果的に深めるためには、医師やがん経験者等の外部講師を活用することが有効であるとされていることから、医療機関、がん患者の会、がん経験者等から協力をいただき、「がん教育外部講師リスト」を作成した。リストの内容は、外部講師が対応可能な地域・校種・規模・講演内容等で構成し、講演可能な内容を、がん教育の項目内容に合わせて表にしたことで、各学校が児童生徒の発達段階や学校の実情に応じて、外部講師を選択可能な活用しやすいリストとすることができた。

また、離島や山間地域などの環境面の課題から外部講師の依頼が困難な学校においても、外部講師が活用可能となるよう、外部講師リストにオンラインへの対応可否について掲載した。さらに、「外部講師によるメッセージ映像」を作成し、学校に配付することで、がん教育に対する映像資料の充実と学校が外部講師活用における選択肢を広げることができた。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○　教職員や外部講師に向けた研修の継続について

令和４年度からは、小学校から高等学校までの全校種でがん教育が実施される。これまでの県教育委員会におけるがん教育推進の取組により、各学校が活用できる授業指定校の学習指導案等の実践事例や映像資料等の教材を充実させることができた。今後は、教材等を活用し、実際に各学校が授業を実施する中で、がん教育を一層推進していくための課題が見えてくることから、その課題解決に資する教材の活用方法や指導力の向上につなげる研修会を開催していく。

○　外部講師リスト及び外部講師の活用について

これまでの授業指定校によるがん教育の授業実践から、授業のねらいに応じて、がん経験者等の外部講師を活用することは、がんやがん患者に対する理解を効果的に深める上で有効であることから、「がん教育における外部講師リスト」を作成した。今後は、作成したがん教育リスト及び外部講師が、各学校において活用されることが重要であり、活用促進が課題となる。各学校が実情に応じて積極的に活用できるよう、外部講師リストの活用方法及び外部講師を活用した好事例の周知を、研修会等を通じて進めていく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○　教員に対するがん教育教材の活用促進及びがん教育における留意事項等の周知

学校におけるがん教育の授業実践にあたり、効果的にがん教育を進めていくためには、指導にあたる教員の指導力向上及びがんに対するより一層の理解を進めていく必要がある。これまで県教育委員会で作成してきた「がん教育教材」の活用方法を周知していくことで、各学校の授業計画の参考となると考えることから、研修会等を通じて周知していく。また、がんは、国民の２人に１人がり患する現状から、生徒やその家族が、がんに直面している可能性等を踏まえ、がん教育実施における留意事項等について、改めて実践事例を用いながら理解を深めていく必要がある。

○　外部講師リストの活用促進と外部講師の学校におけるがん教育に対する理解向上

児童生徒が、がんについての理解を効果的に深める方法として、外部講師の活用は有効な手段となることが、授業指定校の授業実践における生徒及び教員の感想から示された。外部講師の活用を進めていくためには、作成した「がん教育外部講師リスト」を、各学校が積極的に活用していくことが必要である。そのため、外部講師を活用した好事例及び外部講師リストの活用方法を、研修会を通して説明していく。

また、協力をいただく外部講師について、がん教育の授業における留意事項の理解及び指導力の向上が、児童生徒のがんに対する理解の向上につながることから、外部講師に対する研修及びがん教育に関する指導内容や研修会等の情報共有について、継続的に実施していく必要がある。